

律ニ照シ處罰スヘキトアルニ依リ公用取扱上ニ出ルヲ以テ是亦私借官物ニ準擬シ改正私借官物律凡監守自盜ト罪同ト云ニ仍リ可處斷ハ勿論ノ儀ニテ贓金追徴方ノ儀ハ本犯資力限リテ追シ費用セシ切手代價ノ全數ヲ官ニ沒入シ其剩金アラハ差出人ニ下付シ闕缺スルモノハ差出人ノ損失トナスヘキ哉然ルニ郵便局ハ官ノ設立スルニ所シテ規則及罰則アリ郵便局及郵便函ノ外信書ヲ出スヲ禁ス然而ノ郵便取扱ノ者其罪ヲ科セラル、迄ニテ差出人ノ損失トナル時ハ困難ヲ訴ルヤ必セリ右ハ郵便犯罪罰則第一條ニ驛遞頭ハ郵便ヲ司ルノ任ニ當ルト雖信書其他ノ物品紛失シ云々是ヨリ生スル損失不便宜ヲ辨償スル責ニ當ツヘカラスト有之ト雖前條ノ如キ此條ニ必的スル者トモ不相見ニ付驛遞寮ヨリ辨償可相成筋ニ可有之哉

指令 明治九年二月七日第十五号

郵便局ハ辨償ノ責ニ當ラスト雖本年規則第八十條中ニ其時ノ次第ニヨリ右局ノ官長ヲシテ償ハシムヘントノ文モ有之ニ付本文同ノ如キハ驛遞寮ヘ協議ノ上處分スヘシ

第五百十條

滋賀縣伺 同九年一月二十三日

別紙(本年第一號 十丁參看)伺御指令ニ依ル時ハ刑事裁判上民事身代限リ規則ノ通六十日開揭示シ他ノ債主ヘモ割賦セサルヲ得ス其通り相心得可然哉又ハ別紙何償還ノ儀ハ刑事ノ裁判ニ付民事身代限ノ規則ニ依リ償還セシムルモ他ノ債主ニ割賦スルニハ及ハス儀ト相心得可然哉

但シ本文身代限リ償還セシムルニ本犯ノ財産償還金額ニ引足ラ

○名例律 ○給没贓物

ナル時ハ身代持直ニ候上償還ス可キ旨本犯並典賣主へ申渡ス可
キ哉

指令 明治九年二月十
七日第十八号

刑事ニリ起ル民事身代限ハ通常ノ民事身代限ノ法ニ依テ取扱フ可
シ

但書本文ニ就テ知ル可シ

第五百十一條

東京上等裁判所 同九年二
月十四日

強盜盜枉法不在法坐贓等ニ掛ル追徴金納完ノ期限正條無之然ルニ
明治六年十一月中臨時裁判所ヨリノ伺ニ追徴金ハ贖金ノ法ニ依リ
宣告ノ日ヨリ五日以内ニ納完サセ若當日迄贖フコ能ハサル情實有
之者ハ改定律第三十三條ニ準シ延期ヲ聽シ可申哉ニ伺ノ通ト御指

令有之然ルニ右等ノ如キハ往々有之儀ニテ援引可然儀ニ候哉

指令 同九年二月二十
五日第二十三号

五日内贖フコ能ハサル者第三十三條ニ依ルヘシ

第五百十二條

東京上等裁判所 同九年二
月十七日

客月十八日附キ以テ盜贓計算ノ儀ニ付相伺候處(本年第十一号二丁見合)強盜罪
ノ重キ云々事主失フ所ノ財ハ即本犯盜ム所ノ財ナルコト明白ナルニ
於テハ律ノ通科斷スヘシト御指令相成然ルニ右伺ノ趣意ハ証証明
白ナル者ヲ云ニ非ス甲乙ノ二盜共ニ室ニ入り甲ハ既ニ財ヲ奪掠シ
乙ハ未タ財ヲ搜セズ事主ニ覺逐セラレ共ニ逃ル乃チ乙ヲ獲シ之ヲ
糾訊スルニ乙云共ニ戶外へ逃走スルノ際甲ノ襟ヲ負擔シ去ルヲ見
レモ物品ノ何爲ルヲ知ラスト茲ニ於テ事主ノ失單ニ照シ計贓セン

〇名例律 〇論沒贓物

トスルモ甲ヲ捕獲鞫問スルニ非レハ失フ處ノ財ハ該犯等ノ盜ム所
 ノ財ナルヲ確知スルヲ得ス且該犯ノ肯セサルヲ保スルヲ能ハ
 ス何トナレハ曾テ經驗スル所ヲ若稽スルニ事主ノ失單タルヤ大概
 記憶スル所ヲ開申スルモノニシテ對審ノ日ニ當テ却テ盜犯ノ供ニ
 實ヲ得ルヲ聞々之アレハナリ如斯場合ニ至テハ口供甘結ニ論ナク
 事主ノ失單ヲ允トスヘキ乎果シテ然ラハ改定律例第三百十八條ニ
 違フ將ク財ヲ得サル者トスル乎果シテ然ラハ袂ヲ負擔シ去ルヲ見
 ルトアレハ多小贓物アルヲ知ル然則其同夥ヲシテ未得財者トナス
 ヲ得ス甲犯在逃スルカ爲メニ贓數明白ナラサルヲ如斯前伺御指
 令ハ明白ナルモノニ就テノ儀ト被存候閉猶又相伺候
 指令 明治九年二月二十
 五日第二十三号
 乙甲ノ袂ヲ負擔シ去ルヲ見ルトアレハ乙ハ贓ノ配分ヲ得スト雖モ

財ヲ得ル者ト云フヘシ最モ事主ノ失單ノミニテ贓數ノ多寡ヲ審ニ
 スル能ハサルキハ其贓ノ最少ノ數ヲ以テ律ニ照シテ科斷ス可シ

第五百十三條

高知縣伺 同九年二
 月十四日

第一條 楠木ノ儀ハ艦材第一等ノ良木ニ付私山ニ生立ト雖モ猥リ

ニ伐木ヲ許サ、ルノ成規ニ候處其制木ヲ盜伐スルニ私有ニ係ルハ
 竊盜ニ準シ可論ハ勿論ニ候ヘ共追徴ノ儀ハ顯材アレハ官ニ收メ相
 當ノ代價ヲ主ニ給シ該犯其材木ヲ以テ樟腦ヲ製造スル者ハ製品ヲ
 追シテ山主ニ給シ若シ轉賣スル者ハ代價ヲ追徴致シ可然哉

第二條 同上私林ニシテ其主擅伐スル者ハ違令ノ重ニ問ヒ顯材ハ
 官ニ收ト雖モ元來貢稅立ノ地ニテ全ク人民私有ニ屬スル上ハ官沒
 スルハ苛酷ヲ覺ヘ候ニ付是又相當代價ヲ還付シ或ハ樟腦製造スル

○名例律

○給沒贓物

モノ製品ハ勿論轉賣スルモ追徴ニ不及可然哉

但シ若シ官沒スルキハ第一條ノ如キ盜伐スル者ハ常人盜ニ準論

セサルヲ得サル儀ニテハ無之哉

指令 明治九年三月三
日第二十四号

第一條 正贓現在ナルハ本主ニ給シ製品シ若シハ轉賣シテ正贓現
在セサレハ代價ヲ追給スヘシ

但シ官へ入用ノ時ハ代價ヲ以テ買揚ヘシ

第二條 情ヲ量リ違令輕重ニ問ヒ現材及製品若シハ轉賣スル者官
沒追徴ノ限ニアラス

但書第一條指令ノ通

第五百十四條

鳥取縣伺 同九年一月
二十八日

第一條 人家或ハ山野等へ集合賭博ヲ爲ス者有之捕獲ノ爲メ官吏
踏込ニ一兩人ノミ取押跡逃去リ又ハ不殘逃走スルモ有之然ルニ其
場へ殘シ品ノ内應禁ノ物品官沒スルハ勿論ニ候へ共衣類或ハ烟草
入其外諸品ハ悉皆留置後日犯罪人捕得ノ上處分致シ來リ候處閉ニ
ハ幾年月ヲ經ルモ其犯罪人捕ニ就サルモ有之期限無之テハ不都合
不掛候右ハ遺失物取扱規則ノ儀ニ付警視廳伺中事主明白ナラス賊
捕ニ就サル時ハ出張所ニ留置探索ノ用ニ供シ一ケ年ヲ經テ該品ハ
官沒致シ可然哉昨八年二月二十八日伺ノ通ト有之ニ準據シ一ケ年
ヲ經テ官沒可然哉

第二條 山林郊野ニ於テ賭博スルモノ有之ヲ戸長又ハ人民見當リ
其風休ヲ怪ニ聲懸ケ候所彼ノ博徒狼狽退散シテ其住所姓名相分不
申候へ共賭場へ物品殘シ置有之旨訴出候右ハ應禁ノ物品ヲ除クノ

〇名例律

〇給沒贓物

外一ケ年ヲ經テ犯罪人明白ナラサレハ得遺失物ノ例ニ準シ訴出候者へ折半支給シテハ如何

第三條 債主ヨリ債主へ相渡置所ノ地券証或ハ金穀貸借券面等債主賭場へ携帶致シ逃去ノ際殘シ置キ其場ニ於テ更ニ金融致シタルカ又ハ賭物ニ爲タルカ判然ナラスト雖トモ賭場ニ捨置タル物品タルヲ以テ官ニ領置シタル後債主ヨリ借受タル金員差出受取度旨申出候節事理明白ナル証跡有之候ハ還付不苦哉

但債主差出所ノ金員ハ債主捕ニ就クノ後糺問ノ上賭物ニ不致事理明瞭ナラハ當人へ還付ス若シ賭物ニ屬スル時ハ可爲官沒管ニ候へ共一ケ年過テ捕ニ就カサル節ハ如何處分致可然哉

指令 明治九年三月三日第二十四号

第三條共 伺ノ通

但書ノ趣一年ヲ過テ捕ニ就カサル時ハ官沒スヘシ

第五百十五條 飾磨縣伺 同九年一月十九日

強竊盜枉法不枉法坐贓已ニ費用スル者資力ヲ以テ賠償セシムル尋常負債ニ關係セスト雖モ其財産ノ内他へ抵當若クハ質物ニ差入レ及ヒ他ヨリ抵當若クハ質物ニ取置ク動不動産並貸附金穀等有之節追徴方左ノ手順ニ從ヒ可然哉

第一條 該犯所有ノ動不動産已ニ他人へ抵當若クハ質物ニ差入レ金錢多少借受ケ費用シ右動不動産請戻シ條約期限未滿内ニ係ルモノハ其儘債主ニ付シ置キ贓金賠償ノ數ニ充ツルヲ須ヒス
第二條 若シ該犯他人ノ動不動産ヲ抵當若クハ質物ニ取リ金錢貸渡シ條約期限未滿内ニ在ルヲ以テ他人モ未タ請戻サス右動不動産

○名例律 ○給沒贓物

犯人ノ手ニ在ルキハ他日期満ノ後元利合セ金若干ノ内事主何某ニ於テ賠償高ニ其抵當若クハ質入主ヨリ之ヲ受取若シ餘分アル時ハ其餘分ノ金若干本犯何某へ可相渡旨証文面へ裏書致シ裁判廳ノ印ヲ押シ右証文事主へ下付シ置キ其動不動産ノ主請戻ス可キ資力ナケレハ現産ヲ糶賣又ハ入札拂ノ法ヲ以テ直チニ賣却シ賠償ノ數ニ充ツ

第三條 第一二條ノ動不動産何レモ受渡シ條約期限已ニ滿テ該犯繫獄ノ故ヲ以テ結局ニ至ラサル如キハ其犯人ノ取リ置ク他人ノ抵當若クハ質物ハ他人ニ還シテ金ヲ徴シ或ハ他人ノ情願ニ從ヒ現産ヲ糶賣若クハ入札拂ノ上賠償ノ數ニ充テ他人へ差入ル、犯人ノ抵當若クハ質物ハ其資力ヲ計リ請戻ス可キ資力ナケレハ糶賣又ハ入札拂ノ手續ヲ爲シ其代金返濟高ニ滿タサルカ又ハ餘金ノ追ス可キ

分ノナキ價ナルキハ其儘現産ヲ債主ニ付シ置キ餘金アルキハ直チニ賣却シテ賠償ノ數ニ充ツ

第四條 若シ該犯所有ノ金穀他人へ貸渡シ返濟ヲ受ク可キ期限已ニ滿ル者ハ直チニ負債主ヨリ追徴シテ賠償ノ數ニ充ツ

第五條 前條ノ貸金穀未タ返濟ヲ受ク可キ期限ニ至ラサル者ハ他日期満ノ後元利合セ金穀若干(穀物ハ評價人ヲシテ價ヲ定メシメ金ニ直シ)事主何某ニ於テ賠償高ニ負債主ヨリ受取リ若シ餘分アルキハ其餘分ノ金穀若干該犯何某へ可相渡旨証文面へ裏書致シ裁判廳ノ印ヲ押シ右証文事主へ下付スヘシ

右相伺候

指令 明治九年三月三日
第二十五号

第一條 同ノ通

○名例律

○給沒贓物

但條約期限未滿内ト雖其抵當質物ノ價借用金高ヨリ餘分ノ見込アル者ハ先ツ其借金高ヲ債主ニ給シ餘金ヲ事主ニ還給スルヲ勿論アリ

第二條以下 總テ伺ノ通

第五百十六條

千葉縣伺 明治九年二月十日

賊ノ捨置雜品(賊捕ニ就カス事主分明ナラサルキ)一年閉鎖置ノ期限滿テ官ニ沒收スルキ及律例第二百八十五條ニ依リ官沒セシ應禁物等ノ如キハ糶賣ノ上代價ヲ以テ御省へ上納スル儀ト相心得可然哉
指令 同九年三月十七日 第三十三号
書面應禁物遺失物ノ裁判ニ係ルモノ一般贓物ノ例ニ倣ヒ處分可取
計其裁判ニ係ラサルモノハ當省ニ於テ可及指令筋ニ無之候事

第五百十七條

鶴ヶ岡縣伺 同九年二月二十九日

罰金ハ身代限リヲ以テ追シ贖罪金ハ資力限ヲ以テ追シ可然哉

指令 同九年三月二十日 第三十四号

伺ノ通

第五百十八條

愛知縣伺 同九年二月二日

贓罪ヲ犯セシ者其罪未タ發覺セサル内負債ヲ償ハサルニヨリ債主ヨリ民法上ノ訴ニ及ハシ密問中原被和同ニテ身代限賠償ノ約ヲ結ビ被告一家ノ財産悉皆抄割シテ官廳ニ出シ例ニ由リ六十日閉掲示中ニ當リ被告ノ贓罪正ニ發露セハ刑法附帶ノ追徴方ニ於テ正贓現在セサルモ資力限リヲ追シ官ニ還シ主ニ給セサルヲ得ス然ルニ其

○名例律

○給沒贓物

前既ニ民法上被告ノ財産抵償セル前陳ノ如クナルキハ其財産ヲ悉
皆追徴スルヲ得サルニ似タリ故ニ刑事ニ付追徴ノ分モ民事ニ付債
主分配ト一般各其損失ノ金高ト均一ニ配分セシム可キ乎然ルニ刑
事ニ付追徴ハ被告ノ本身ニ止リ民事ニ付還償ハ其子孫ニ及フノ別
アルヲ以テ刑事ニ付追徴ハ民事ニ於ル抵當品ニ付先取ノ特權アル
者ト同ク處分シテ可然哉

指令 明治九年三月二十
二日第三十六号

民事ノ賠償刑事ノ追徴ト並發スル時ハ抵當質入ノ先取ノ特權アル
者ハ先ツ債主ニ償ハシメ後ニ事主ニ追給ス其抵當質入ニ係ラサル
者ハ先ツ追徴シテ事主ニ還給シ餘アレハ債主ニ償ハシム可シ

第五百十九條 三瀨縣伺 同九年三
月五日

昨八年中長崎上等裁判所ニ擬律相伺候別紙第一印罪案^之ノ通當縣
山門郡沖ノ端古賀熊次儀長崎縣ニ潜伏中行衛不知同所村田廣次ト
必易ク相成同人贖金札所持候儀承知致シ右札七百圓借用ノ内百五
十圓高チ小倉縣八屋村有賀眞吉ニ相預ケ置候旨申立ニ付同縣ニ引
揚方掛合候ヨリ同縣ニ引揚置候其後金札交換ノ際別紙第二印^之ノ
通同縣ニテ右引揚金百五十圓ノ内百二十五圓ハ正札ノ鑑定ニ依リ
紙幣ト交換致シ客年十一月中右金小倉縣ヨリ及遞送尙又熊次手前
取糺候處前段口供ノ通ニテ別ニ申立ノ廉無之ニ付右金ハ元來贖金
ヨリ替リタル儀ニ付官沒勿論ト存候得共爲念相伺候

追テ熊次儀ハ再度同囚ノ逃走ヲ報スルニ付本罪ニ二等ヲ減シ懲
役十年限内ノ者ニ候事
指令 同九年三月二十
七日第三十九号

○名例律 ○給沒贓物

伺ノ通

第五百二十條

長崎裁判所檢事局伺 明治九年二月二十四日

典賣ノ贓物或ハ置キ贓物等有之本犯不相分者假リ預ケノ儀ハ其贓物所在地ノ警察官ニテ預ケ方取計可然哉

指令 同九年三月二十
八日第三十九号

伺ノ通

第五百二十一條

大阪府伺 同九年三月三日

第一條 昨明治八年御省日誌第二十號濱田縣伺ニ甲ノ被盜品ヲ乙ノ地所ニ隠シ置キ有之ヲ丙ナル者見出シタルキハ遺失物ニ準シ甲丙中分伺ノ通リト有之候ニ付右ヲ援引處分致シ來リ候所同八十二

號高知縣伺ニ賊甲ノ所有物ヲ盜取乙ノ邸内ニ隠シ置所丙ナル者見出シタルキハ改定律例第二百八十三條ニ準シ事主ト中分シ可然乎ノ伺ニ所有主ニ全給スヘシト御指令有之類似ノ條件ニシテ御指令兩岐ニ涉ルハ全ク邸内ト地所トノ區別有之儀ニ候哉

第二條 甲ノ盜マン品乙ノ邸内ニ置捨アルヲ乙見當リ届出ルキハ前條ニ照シ事主ニ全給可然哉

第三條 賊ノ捨贓物賊縛ニ就カス事主分明ナラサルキ一年閉官ニ領置シ滿期處分方並律例第二百八十五條ニ依リ官沒セシ應禁ノ物品地方官ニテ取扱候儀ハ御省日誌明治八年第八十四號熊谷裁判所伺御指令ニテ判然致シ居候ヘトモ賊縛ニ就カス事主分明ナルトキノ處分方ハ裁判所ニ於テ取扱候儀ト相心得可然哉

指令 同九年三月三十日第四十号

〇名例律 〇給沒贓物

第一二條 伺ノ通

第三條 地方廳ニ於テ處分スヘシ

第五百二十二條

鶴岡縣伺 明治九年二月二十九日

贖罪金罰金等追徴方ノ順次及身代限分産配當方ノ儀ニ就テハ御省日誌中諸所ニ散見致シ候得共何分解疑スル能ハサルノ廉々左ニ民法身代限言渡シ六十日間揭示中右負債者証券印紙無貼用ノ廉(揭示中追訴ノ者之ナリ)或ハ盜贓追償等ノ罪犯發露シ罰金並ニ盜贓追徴等ノ處刑申渡スカ又ハ已ニ(身代限言渡シ前)贖罪金罰金等ノ處刑言渡シ未タ完納致サ、ルカノ内身代限言渡ニ相成タルキハ六十日間揭示後負債者所有ノ財産入札拂或ハ糶賣ノ末租稅縣稅賦金訴訟用郵紙代及戸長手元へ取立ヘキ民費等之アラハ是ヲ第一番ニ引去リ

第二番ニ訴訟入費ヲ引去リ候トハ豫シメ承知候得共第三番ニ罰金贖罪金ヲ追シ第四番ニ債主へ分配スヘキ哉又ハ右第二番ノ分ヲ引去リ第三番ノ罰金贖罪金ハ人民交際上ノ負債同一金高ニ應シ配當スヘキ哉ノ開明瞭致サス且又右ノ類並ニ盜贓追徴金過失殺傷収贖金等一時並起スルキハ前書數種ノ内何レヲ先ニシテ何レヲ次ニシ何レヲ末ニシ取立可然哉

指令 同九年四月二十日 第四十四号

民事身代限申渡サ、ル以前ハ勿論已ニ申渡スト雖トモ未タ財産ヲ配分セサル内刑事發露シ贖金贓金等追給ス可キ者アルキハ其財産ヲ賣拂ヒ先ツ租稅縣稅ヲ追シ次ニ盜贓ヲ追シ次ニ訴訟入費ヲ追シ次ニ負債ヲ償ハシメ次ニ贖金罰金ヲ追ス若シ財産抵當質入ニ係ルトキハ先ツ租稅縣稅次ニ訴訟入費次ニ負債ノ賠償次ニ盜贓ノ還給

○名例律

○給沒贓物

次ニ贖金罰金ヲ追スヘシ

第五百二十三條

飾磨縣伺 明治九年三月十九日

事主知レサル不現在ノ贓物ト雖モ盜犯資力アレンハ代價ヲ追シ一年ヲ經テ尙事主知レサル時ハ官ニ没シ候哉

指令 同九年四月二十七日 第五十一号

伺ノ通

第五百二十四條

北條縣伺 同九年三月三十一日

甲盜贓タルヲ知ラス公商公買ニ由ラスシテ物品買取乙へ賣却乙ハ丙へ賣却シ丙ノ手ニ現在スルキ本犯資力アルヲ以テ其物品ハ直ニ追徴ノ事主へ給付シ甲乙得ル處ノ花利ハ現存ノ有無ニ論ナク官

没シ若本犯資力ナキハ丙ヨリ事主へ乙ヨリ丙へ甲ヨリ乙へ轉償

セシメ結局甲ノ損失ニ止ル儀ト相心得可然哉

指令 同九年五月二日 第五十四号

伺ノ通

但花利ハ追スルニ及ハス

第五百二十五條

度會縣伺 同九年三月十三日

盜罪處決ノ上資力限リテ追シ入札拂代金ヲ事主ニ分給スヘキ財産中ニ公債証書アリテ之レヲ入札拂トスルキハ其裏面捺印内へ盜贓償却ノヲ追徴セシ事由ヲ記載シ裁判廳ノ印ヲ押捺シ公債証書發行條例第六條第三節ノ如ク公債掛換印スル等ノ手順ヲ經テ落札人へ交付シ可然哉大藏省へ伺書差出候處御省へ伺出ヘキ旨ヲ以テ還却

○名例律

○給沒贓物

相成候ニ付此段相伺候也

指令 明治九年五月九日
第五十八号

伺ノ通

第五百二十六條

兵庫裁判所伺 同九年四月七日

爰ニ盜犯アリ神戸在留外國人某ノ飼犬ヲ竊取ス其後該犯縛ニ就キ
犬ハ現存致候ニ付本主ニ還付ノ上其價ヲ尋問候ヘハ五十弗ノ旨ニ
テ且ツ洋犬體質ノ良否價位ノ貴賤ヲ熟知スル者ノ評價ヲ以テ相當
ノ處置ヲ乞度旨申立候元來其請求無之ニ評價人ニ估計爲致候成規
ニ依リ右ノ犬ヲ評價人ニ相示シ候處内國ノ獸畜ニ於テハ其價格ヲ
辨知致シ候得共洋犬ニ於テハ評價難致旨申立候依之當港内ニ其評
價者ヲ相尋候ヘニ更ニ無之居留外國人ニ尋問候ヘトモ是亦贓品ノ

評價ハ罪名ニ關スル儀ニ付明辨難致旨相斷ハリ候就テハ如此場合
ニ及候得ハ唯本主ヨリ申立ノ價位ノミニ依リ罪名相定可申裁據
可致律條モ無之故如何取計可仕哉

指令 同九年五月二十
二日第六十二号

事主ノ申立ニ依テ計贓スルノ法ナシ尙評價人ニ命シ估計セシム可
シ

但シ洋犬已ニ舶來シ内國ニモ轉賣買スル者アレハ評價ス可カ
ラサルノ理ナカル可シ

第五百二十七條

和歌山縣伺 同九年五月三日

公商公買即盜犯ナレハ資力限リ賠償セシメテ追給シ直ニ追徴スル
限ニ非サル處若シ事主告訴シテ追給ヲ求ムルトキニ際シ盜犯未ク

○名例律 ○給沒贓物

縛ニ就カサレハ其公商公買タルヤ否確認シ難シト雖モ贓物ヲ買取
スル者物品授受ノ際盜犯ノ言ヲ信シ公商公買ナリト申立ルモハ官
ニ於テハ公商公買ヲ以テ論セサルヲ得ス斯ノ如キハ到底追給スル
ヲ得ス是等ノ場合ニ於テハ警察官吏之ヲ處分致シ可ナラン手將
テ裁判官吏ニ於テ其處分ニ及フ可キ耶

指令 明治九年五月二十
二日第六十二号

裁判官ノ審判ヲ經公商公買ニ由者ト決セハ直ニ追徴スル限ニ非ス

第五百二十八條

和歌山縣伺 同九年五
月三日

情ヲ知ラス公商公買ニ由ラスシテ贓物ヲ買取シ事主明白ナルモハ
賊ノ捕獲ト否ニ關ラス贓物給沒條ニ照シテ還給スヘキ處本無罪ニ
屬スル者ニシテ刑ヲ裁判官ニ求ム可キ者ニ非ルヲ以警察官吏ニ於

テ贓物ヲ還給シ可ナラン手將テ裁判官ニ於テ處分ス可キ儀ニ候ヤ

指令 同九年五月二十
二日第六十二号

本有罪ノ贓ナレハ裁判官ニ於テ處分ス可シ

第五百二十九條

鶴岡裁判所伺

第一條 給沒贓物條正贓現在スルモノハ官物ハ官ニ還シ私物ハ主
ニ還ス律例第五十一條凡正贓現在ト稱スルハ贓賊ノ手ニ存在シ及
ヒ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル者ヲ謂フト有之候處明治九年本省日誌
第五号和歌山縣ヨリ盜贓金或ハ坐贓財等ヲ以テ公租ニ充テ官ニ収
ル者本犯資力之レナキモハ公租ニ充ル金ト雖トモ官ヨリ追シ事主
ヘ給スヘキ手ト相伺候處御指令公租ニ充ル者ハ事主ニ給付スルニ
及ハスト熟考スルニ律ニ正贓官司ノ手ニ在ル者ハ追シテ事主ニ給

○名例律 ○給沒贓物

セサルノ明文ヲ掲ケサル上ハ公租ニ充ルモ現在スレハ等シク是レ
追シテ事主ニ給スヘキニ似タリ殊ニ律例第五十八條等ニ比較致シ
候テモ稍々權衡不妥ヲ覺フ御指令ノ律意如何

但未タ管廳ニ完納セス區戸長ノ手ニ在ル間ト雖モ仍ホ御指令ノ
通相心得ヘキ乎

第二條 前條御指令ノ如ク盜贓ヲ以テ公租ニ充ル者事主ニ給付セ
ラレサル上ハ賄罪収贖過料罰金等ニ完納スル者モ事主ニ給付セラ
レサル儀ニ候哉

指令 明治九年十月十
二日錄第一号

第一條 盜贓ヲ以テ公租ニ充ル者ハ舊債ニ抵償スルカ如キ相互ノ取
引ト異リ已ニ完納シテ區戸長ノ手ニ在ル以上ハ正贓費用ト看做ス
第二條 伺ノ通

京都裁判所何

八年御省日誌第三十九號滋賀縣ヨリ他人ノ衣類夜具等ヲ賃借シ其
末一時融通ノ爲メ私借シテ他ニ典賣セシ無力者ノ伺ニ一時融通ノ
爲メ私借シテ典賣スル賠償ハ民法賠償ノ處分ニシテ刑法ニ關セサ
ルモノトスト御指令相見ヘ候若然レハ其典賣セシ物品假令典鋪ニ
現在スト雖モ素ヨリ之ヲ刑法ニ入レ追還ノ處分ニ及フ可カラサル
ニ依リ物品ハ仍ホ典鋪ニ止メ典賣者ハ仍ホ民法身代限ノ處分ニ及
ヒ其私借ノ罪ハ不問ニ措キ可然哉

指令 同九年十月十
二日錄第一号

伺ノ通

〇名例律

〇給沒贓物

二九七 第五百三十一條 滋賀縣伺

第一條 改定律例第三百十八條ニ若シ未タ斷決セスシテ死亡スル者ハ其罪ヲ論セストアレドモ正贓現在スル者ハ追徴ノ本法ヲ盡シ若シ已ニ費用スルキハ罪證明白ニシテ本犯ノ遺産アリト雖トモ相續人ヨリ追償不申付儀ト相心得可然哉

但本文正贓現在スル者ハ本犯死亡スルモ追徴スル儀ニ候ハ、賊正贓ヲ他ニ典賣シ代金費用ノ後死亡シ其贓品典賣先ヨリ追徴スルキハ其典賣代價ハ相續人ヨリ典賣先キヘ賠償セシムル手又ハ典買主ノ損失ト爲シ候哉

第二條 官私ノ文書ヲ詐爲スルノ情ヲ知テ爲メニ代書シ或ハ証書ヲ詐爲シ民事ノ裁判ヲ仰クノ情ヲ知テ爲メニ代人トナル者ノ如キ受ル所ノ謝金現在スレハ追徴沒官シ若シ已ニ費用スル者ハ資力限

リ追徴スルニ及ハス候哉

指全 同九年十月十日
三日錄第一号

第一條 伺ノ通

但書律例第五百十七條ニ依リ處分ス刑事ノ追徴ニ付相續人ニ係ルヲ得ス

第二條 資力限り追徴ス

第五百三十二條 大阪府伺

死刑者隕命ノキ身ニ纏フ衣服及ヒ官ニ領置スル物品本犯親戚ナケレハ沒入スヘキ儀ハ太政官明治六年一月三十日御達第三十三号ニ相見候處官沒品上納方ノ儀ハ差向キ適當ノ御達モ不相見右ハ別途御省へ上納致候テ可然哉且所有品ノ內衣類等ハ賣拂代金ヲ以テ上

○名例律 ○給沒贓物

納可致哉即今官沒ノ分モ有之候條至急御明指ヲ仰候也

指令明治九年十月十日
四日錄第一号

伺ノ越官沒品ハ總テ賣却代價ヲ以テ納附可致事

但上納記内譯帳可相副事

第五百三十三條

大分縣伺

賍贖諸罰金上納ノ儀毎月十五日限御省へ上納ノ定規ニ候所太政官
本年第七十六號御達ニ依レハ府縣稅ハ勿論總テ上納金小倉出納寮
出張所へ假納シ同所ヨリ得ル所ノ預リ證書ヲ以テ相納候ニ付テハ
本年八月中徵収ノ上納金モ同所へ假納ノ上預證書ヲ以テ御省へ上
納仕候ニ付是迄ノ期日ニ上納ノ儀ハ難出來候條此段前以テ上申仕
置候尙今後期限ノ儀ハ如何相心得可然哉

指令同九年十月二十
三日錄第一号

本年九月二日及十月三日付兩通伺ノ越上納記内譯帳並内譯表而已
期日ノ通り納付シ出納寮假納証ハ其地到着次第遞送候儀ト可心得
事(九月二日附ハ賍贖罰金納方伺十月
三日付ハ訴訟用郵紙稅納方伺ナリ)

第五百三十四條

滋賀縣伺

爰ニ盜犯アリ賠償スヘキ金百圓アルヲ以テ官ヨリ資力限リノ追徵
法ヲ行フニ現ニ存在ノ財產一物モ無ケレハ五拾圓ノ貸金証書ヲ所
持スレハ則チ多少資力アル者ナレハ右証書ハ公賣シ夫々事主へ賠
償セシメサルヲ得ス然ルニ本年第九十九號ヲ以テ金穀借用等証書
ヲ其貸主ヨリ他人ニ讓リ渡ス節ハ其借主ニ証書ヲ書換ヘシメサル
トキハ讓渡ノ効ナキ者トスル旨御布告相成リ就テハ前顯盜贓等贓

○名例律

○給沒贓物

債ノ爲メ貸金證書ヲ公賣スルモ亦右御布告ニ據ルヘキ儀ト存セテ
ル若シ借主ニ於テ書換ヲ拒ムルハ如何處分シテ可然哉

指令 明治九年十月二
十六日錄第一号

盜犯ノ所持スル貸金證書ハ真正ノ者ナレハ借主ニ於テ書換ヲ拒ム
筋無之ニ付若シ書換ヲ拒ムルハ相當ノ處分ニ可及事

第五百三十五條

大阪府伺

詐欺ノ爲メ置殘シ或ハ預ケ置シ物品並盜賊置捨品等(本犯ノ所持品
手他家ニテ盜
來ル品乎原)ハ三十日揭示ノ後主ナキハ右被置殘候等ノ被害者ニ給
與スヘキ乎將テ一年間領置ノ上官沒可致哉

指令 同九年十月二十
六日錄第一号

一年間官ニ領置シ物主知レサレハ官沒ス

第五百三十六條

長崎裁判所檢事局伺

盜犯等ノ贓品ハ裁判官ニ於テ評價人ヲシテ估計セシムルハ言ヲ待
タスト雖トモ檢官ニ於テモ贓金ノ多少ニ因リ罪ノ輕重ヲ分テ求刑
ノ見込相立候場合ニハ裁判所ノ評價人ヲシテ估計致サセ候儀ト必
得可然哉

指令 同九年十一月
九日錄第三号

伺ノ通

第五百三十七條

福島縣伺 同九年十一
月二十二日

昨明治八年十月十一月十二月三ヶ月分贖罪諸罰過料金等別紙任譯
書ノ通改テ開申候ニ付テハ本年一月中相納候金額ニテハ不足ヲ生

○名例律

○給沒贓物

シ依テ遺般未納ノ分十月分金十九圓三十七錢五厘十一月分金七圓
 二十五錢十二月分金百六十三圓五十錢五厘三ヶ月分合計金百九十
 圓十三錢追納スヘキ處該犯ヨリ追徴スル金並資力共合シテ百九十
 二圓餘有之ニ付上納スヘキハ無論ノ所該犯竊取スル所ノ贓金ハ前
 顯上納ノ分耳ニ無之事主其他夫々ヘ下付スヘキ分モ三百十六圓三
 十一錢壹厘之ノ有ル儀ニ付右追徴金額ノ内ニテ上納下付ノ分右金
 額ニ割付追納候テ可然哉(別紙トハ贓贖諸罰金ヲ主任官吏竊取シ諸
 表取繕ヒ差山ヲ再調ノ上開中ノ事ナリ)
 指令 明治九年十二月二十
 二日錄第十二号
 伺ノ通

犯罪自首

第五百三十八條

足柄裁判所伺 明治六年七月

東京牛込改代町商榮次郎弟

奥村 有敬

右ハ別紙罪案ノ通三次竊盜ヲ犯シ其二次事主ノ覺悟ニ遇ヒ嚴ニ尋
 問ヲ受ケ終ニ其贓ヲ首服還付致シ其一次竊盜得財ノ本罪アル者ニ
 テ律ニ正條無之仍テ擬律奉伺候(罪案畧之)

指令 同六年七月三十
 一日後第十九号

賊盜律 竊盜贓金十圓以上再犯ニ仍リ一等ヲ加ヘ
 懲役八十日 贓金十八圓餘
 奥村 有敬

事主ノ嚴責ヲ受ケ實ヲ告ケテ贓ヲ還スト雖モ盜狀ヲ蔽フ能ハサ
 ルニ出ツ自首ノ限ニ非ス

〇名例律

〇犯罪自首

〇〇八

第五百三十九條

濱田縣伺 明治六年七月二十八日

人ヲ罵詈シ後ヲ過キテ悔ヒ罪ヲ其人ニ計スル者ハ本罪幾等ヲ減シ可然哉

指令 同六年八月十八日 後第三十三号

首免ヲ與ヘス本罪ヲ科ス本文幾等ヲ減スル云々罵詈ノ本罪ハ答一十トス如何シテ減等ヲ爲スヤ新律綱領罵詈律ヲ熟讀スヘシ

第五百四十條

福岡縣伺 同五年正月十二日朔日

新律犯罪自首ノ部ニ云凡罪ヲ犯シ事未ク發覺セシテ自ラ自首スル者ハ其罪ヲ免ス云々若シ人ノ官ニ陳告セシテ知テ自首スル者ハ本罪ニ一等ヲ減ス凡罪ヲ犯シ首タル者自首スレハ其從及ヒ連累人ハ自首ノ情ヲ知ト知サルニ拘ラス全ク其罪ヲ免ス可キカ又其從

及ヒ連累人首告スト雖モ原犯人ノ罪免ス可ラサルカ人ノ官ニ陳告セシテ知テ自首スル者本犯人減等スレハ其從及ヒ連累モ亦減等スヘキカ又其從及ヒ連累人ヨリ自首スト雖モ原犯人ハ減等ノ限ニ非ス候哉

指令 同六年八月二十五日 後第四十一号

連累人ハ自首ノ情ヲ知ト否トヲ問ス正犯ノ減等免罪ニ從ヒ減免スト雖モ連累人自首スルトモ正犯ハ減免ノ限リニアラス首從ハ正犯連累ト異ナリ各自犯ス者ニ因リ首ノ自首スルモ從ハ免罪ノ限ニ非ラス

一〇八

第五百四十一條

京都裁判所伺 同六年十月九日

滋賀縣伺ノ御指令ニ關毆傷ヲ成サス及罵詈等ノ如キハ他人ノ權ヲ

〇名例律

〇犯罪自衛

屈辱スト雖ヒ人ヲ損傷セサルニ付首免ヲ與フト之アリ候處濱田縣
ヨリ人ヲ罵詈シ後過ヲ悔ヒ罪ヲ其人ニ謝スル者減等ノ伺ニハ首免
ヲ與ヘス本罪ヲ科ストアルニ依リ候ヘハ闘毆罵詈等ハ損傷セスト
雖トモ自首ノ限ニ在サルニ似タリ孰ニ從ヒ可然哉

指令 明治七年一月
七日第一号

闘毆ハ傷ヲ成サスト雖ヒ首免ヲ與ヘス罵詈ハ傍人ヨリ告ル者ニ非
ス被罵者告ケサレハ已ニ與スニ係ル故ニ自首ノ事ナカル可シ若シ
自首アレハ首免ヲ與フ

第五百四十二條

大分縣伺 同六年十二
月十四日

士族ノ者家作營造ノ爲メ官林ヲ盜伐シ落成ノ後悔悟自首スル者ア
リ其盜伐ノ材價ヲ追徴スレハ自首條ニ照シ其罪ヲ免スヘキカ將タ

賠償スヘキモノニアラサレハ首免ヲ與ヘサル方ニ可有之哉

指令 同七年一月十
九日第十一号

官木ヲ盜伐シ家屋造營ニ費シ自首スル者其價ヲ追シテ首免ヲ與フ

第五百四十三條

豊岡縣伺 同六年十二
月二十八日

首從金圓ヲ竊盜シ後ヲ過テ悔ヒ首從俱ニ自首シテ首ハ假令ハ賍金
五百圓ノ内三百圓ヲ徴スルヲ以テ剩賍二百圓本罪懲役十年ニ二等
ヲ減シ懲役五年從ハ五十圓ノ分配ヲ請ケ自首シテ其賍不可徴トキ
ハ五十圓ノ本罪懲役一年ニ二等ヲ減シ懲役九十日ニ處シ可然哉

指令 同七年一月二十
八日第十七号

賍金五百圓ヲ共ニ盜メハ自首スルト雖ヒ内二百圓徴ス可ラサルニ
付二百圓ノ本罪ヨリ二等ヲ減シ懲役五年從ハ又一等ヲ減シ懲役三

〇名例律

〇犯罪自首

第五百四十四條

名東縣伺 明治六年十月十四日

凡罪囚ヲ擒獲スルヤ其始メ姦盜人命等所犯ノ踪跡ヲ認メ得其目ヲ付シ該術ニ送リ經承官吏モ亦其目ニ就テ鞠獄案ヲ成スト雖モ復審問ニ臨ミ其他ノ犯情モ悉ク承招スヘシト詰問スルヨリ恐喝取財ノ囚強盜ヲ承招シ竊盜ノ犯人賭博ヲ供狀スル如キ官ノ威嚴ト鞠吏ノ詰詞ニ依リ吐露スル者ニテ敢テ改過自責シ悔悟ノ念有ルニ非サレハ二罪併發一ノ重ヲ取り結案スル辨ヲ待タズ然ルニ御省日誌後第二十八号度會縣伺竊盜ヲ鞠問シ訊杖モ不加シテ強盜賭博ヲ承招スルハ強盜賭博ハ自首ト見做シ云々ノ所強盜賭博ハ自首ト見做スヘシト御指令有之犯罪自首條例官ノ捕獲セント欲スルヲ聞テ自首ス

ル者ト雖トモ一等減ニアリ況ンヤ鞠訊ニ係ル者ヲ最モ鞠問上ト雖トモ事故ニ依リ悔悟ノ念厚ク人ヲ感動スルニ足ル者ハ特別ノ稟議ヲ經ル者勿論ナレトモ概シテ自首トハ見做シ難キ哉

指令 同七年一月三十日 第二号

罪囚ヲ鞠訊スルニ官吏ノ意外ニ別罪ヲ供狀スルハ其別罪ハ自首ニ依テ論ス蓋シ官ノ捕獲セント欲スルヲ知テ自首スル者ハ其官ノ指ス罪ヲ自首スルヲ謂フ故ニ一等ヲ減ス若シ官指ス所ノ罪ニ非サル餘罪ヲ自首スル者ハ亦自首ト同ク論ス因テ減等全免ノ違ヒアルト心得ヘシ

第五百四十五條

小田縣伺 同七年二月

諸帳簿付込金高朋濟ノ餘過剩付込候者自ラ覺舉シテ自首ノ上更ニ

○名例律

○犯罪自首

印稅相納別帳ニ証印ヲ乞フ者ハ自首ヲ以テ科料ハ差免シ願金高ニ應シ印稅取上以來相用ル帳簿ノ金高内へ右過剩ノ分差加へサセ可然哉

第二類ノ證印ヲ受へキ者過テ第一類ノ印稅相納メ一類ノ証印ヲ受テ置後ヲ覺舉自首ノ上第二類ニ引直シ願出候者ハ科料ハ差免シ引直シノ儀聞届可然哉

牛馬賣買免許鑑札一枚ヲ申請ケ誤テ八疋乃至十二三疋ヲ率ク者自首ノ上定稅相納更ニ増鑑札一枚申受度旨願出ル者ハ一鼻網七疋定ノ外五六疋ヲ率クノ科料ハ勿論牛馬取上差免シ鑑札更ニ差下ケ可然哉

郵便犯則ノ者銃獵犯則ノ者ノ如キモ自ラ能ク出首スレハ其罰金ハ免シ候テモ不苦儀ニ可有之哉

指令明治七年二月十日
第七百三十七号

四條共 伺ノ通

但シ其情狀ニヨリ人ノ告ノト欲スルヲ知テ首スルノ類ハ自首律減等ノ例ニ照準シ罰金ヲ輕減スヘシ

第五百四十六條

鹿兒島縣伺 同七年二月十四日

譬へハ犯盜發覺捕獲糾彈スルトキ未タ告發ヲ經サル偽造寶貨若クハ賭博ノ事ヲ申告スル類ハ未發自首ニ問ヒ盜ノ一罪ヲ科ス可キ乎

指令 同七年二月二十
八日第四百十六号

伺ノ通

第五百四十七條

豐岡縣伺 同七年二月八日

○名例律

○犯罪自首

八ノ誘導ニ從ヒ金百圓ヲ竊盜シ其首九十圓ヲ持シ逃走未タ何地ニ在ルヲ知ラス其從受ル處ノ贓十圓内五圓ハ既ニ費用シ五圓ハ現ニ手ニ在リ官ノ捕獲セント欲スルヲ聞テ自首スル者現在ノ五圓ハ之ヲ徴シ費用ノ五圓ヲ本罪ト爲シ一等ヲ減シテ處刑ス可キ哉
又人ノ誘導ニ從ヒ財物ヲ竊盜スト雖トモ其首多ク之ヲ持シテ逃走故ニ其從全數ノ幾何タルヲ知ラス只テ受ル處ノ贓十圓内五圓ハ既ニ費用シ五圓ハ現ニ手ニ在リ官ノ捕獲セント欲スルヲ聞テ自首スル者モ又第二條ノ如ク處刑ス可キ哉

指令 明治七年二月二十八日第四十七号

第一條 竊盜百圓ノ從官ノ捕獲ヲ聞テ自首スル者ハ本罪ニ一等ヲ減ス其分贓ノ多寡ヲ論セス併贓シテ罪ヲ科ス

第二條 其本主モ知レズ首ト稱スル者逃走シ其得ル處ノ贓數知レ

サレハ其分贓十圓ノ從ヲ以テ論シ前條ノ如ク自首スレハ一等ヲ減ス若シ後ニ逃者ヲ獲テ鞫問スルニ從ナル者還テ首ナレハ新律名例犯罪事發逃亡條ニ依ルヘシ

第五百四十八條

豐岡縣建言 同七年一月十日

新律綱領改定律例中首免ヲ與フル條件中賭博ノ如キハ犯徒累々是等ノ徒自首シテ其罪ヲ免スル法律ヲ知ラハ朝々ニ賭博シ夕ヘニ首出シ其弊賭博シテ届出ルニ似タル様相成候テハ不体裁ニ付逃亡律ト同シク首免ヲ與ヘズ自首ノ贖ヲ聽シ候方可然哉此條及建言候
指令 同七年三月三日第四十八号
賭博ハ首免ヲ與フト雖モ自首ノ再度ニ係ルハ首免ヲ與ヘズ律ノ通處斷ス可シ

○名例律 ○犯罪自首

第五百四十九條

滋賀縣伺 明治七年二月十七日

犯罪自首條ニ枉法不枉法ノ贓ヲ受ケ過テ悔ヒテ本主ニ還付スル者ハ官司ニ自首スルト同ク皆其罪ヲ免ストアルニ依リ其贓罪ハ免ト雖トモ枉法ニ至ツテハ其法ヲ枉ルノ罪ハ官司ニ自首スルニ非カレハ免罪セサル儀哉

枉法不枉法ノ贓本主ニ還付スル者ハ罪ヲ免スト雖トモ與フル者ハ仍ホ本罪ヲ科シ其財ハ取與俱ニ罪アル者ニ付官ニ没入シ可然哉

指令 同七年三月四日 第五十五号

第一條 受贓ノ罪ハ免スト雖トモ故出入ノ罪已ニ決放スル者ハ官司ニ自首スルト雖トモ首免ヲ與フルノ限ニアラス

第二條 與フル者別ニ論ス可キノ罪アソハ仍ホ律ニ依リ科斷スト

雖トモ其坐贓ノ罪ハ不問ニ置ク財物モ官没スルノ限ニアラス

但故失出入ノ罪未タ決放セス官司ニ自首スルモノハ首免ヲ與フ

第五百五十條

新潟縣伺 同七年三月五日

捕吏盜犯ノ蹤跡ヲ確知シ犯人ニ説諭シテ竊ニ盜贓ヲ事主ニ投還シテ逃亡セシメ財ヲ受ケス犯人未タ獲ス事將ニ發露セントスルヲ懼レテ出首スル者ハ首免ヲ聽スヘキ哉

指令 同七年三月十七日 第五十五号

首免ヲ與ヘス律ニ依テ科斷ス可シ

第五百五十一條

秋田縣伺 同七年三月十五日

官私ノ樹木ヲ毀伐シテ自首スルモノハ倍償ス可ラサルモノト看做

〇名例律

〇犯罪自首

シ首免ヲ與ヘサル儀ニ候哉

指令 明治七年三月二十
九日第六十二号

賠償ス可ラサル限ニ在ラス首免ヲ與フヘシ

第五百五十二條

水澤縣伺

山野ノ樹木ヲ斫伐竊取スルハ其材存スト雖モ賠償ス可ラサル理ニ
付自首スルモ首免ヲ聽サ、ル儀ト存候ヘ共首告ノ情ハ原諒ス可キ
者トシ平民ハ贖罪ニ處シ士族ハ族ヲ貶セス祿ヲ給セサルニ止メ候
テ可然哉

指令 同七年四月七
日第六十五号

樹木ノ價錢ヲ追徴シテ首免ヲ與フ可シ

第五百五十三條

若松縣伺 同七年
三月

山林ヲ盜伐シ後チ悔悟自首スル者正贓現在シ若クハ追徴スルヲ得
ル者自首ノ例ニ依リ盜罪ハ首免ニ從フト雖トモ其伐木スル罪ハ賠
償ス可ラサルヲ以テ自首ノ例ニ在ラスト看做シ自首シテ贓徴ス可
ラサル者ニ擬シ本罪ニ二等ヲ減シ處斷可然哉

指令 同七年四月十四
日第六十九号

樹木ノ價錢ヲ追徴シテ首免ヲ與フ可シ

但犯罪自首律中賠償ス可ラサルノ物トハ數千金ヲ費ヤスト雖モ
再ヒ得難キノモノヲ謂フ本文樹木ノ如キ物ヲ指テ云フニアラス

第五百五十四條

若松縣伺 同七年四
月七日

明治六年十一月中蠶紙賣買及ヒ酒造等犯則自首ノ者ノ儀ニ付相伺

○名例律

○給沒贓物

候處諸規則ヲ犯シ自首スル者ハ其情狀ニヨリ自首律例ニ照シ放免
又ハ減等スト御指令ニ候處其犯人ノ官ニ陳告セント欲ルコト知
テ自首スルトキハ其自首條例ニ依リ本罪ニ二等ヲ減スト在ニ照シ
百圓ノ罰金ハ二十圓ヲ減シ八十圓ニ可處哉何レヲ據トナシ可然哉
指令 明治七年五月七
日 第八十五号
人ノ官ニ陳告セント欲スルヲ知テ自首スル者ト雖其犯狀ニ據リ
各輕重アルニ付減等法ニ預メ定規セサルハモト裁判官ノ意見ニ任
スヲ以テナリ故ニ其時ニ臨ニ情狀ヲ酌量シテ自首律ニ照シ其本罪
相當ト思量スル罰金高ノ内ニテ適宜ニ減等スヘシ

第五百五十五條

愛知縣伺 同七年五
月四日

爰ニ強竊盜ノ罪ヲ犯シ盜取スル所ノ金十圓ヲ費用スルノ後先非テ

悔ヒ別ニ資産金十圓ヲ携ヘテ自首スル者アリ其賠償スル金ハ即チ
普通ノ品位ナルヲ以テ事主ニ於テ毫モ損害ノ憂ナシ之ヲ改定律例
第五十五條中必ズ追徴シテ本主ニ給スト云ニ比スレハ其情狀大ニ
異ナリ依テ名例律犯罪自首條ニ照シ全ク其罪ヲ免ス可キ哉
指令 同七年五月十九
日 第九十四号
伺ノ通

第五百五十六條

小田縣伺 同七年三
月十九日

本年二月中證券印紙牛馬賣買免許鑑札郵便銃獵等ノ諸犯則ト雖其
自首スル者ハ其罰金ヲ免シ可然哉ノ旨相伺候處伺ノ通但其情狀ニ
ヨリ人ノ告ント欲スルヲ知テ首スルノ類ハ自首律減等例ニ照準シ
罰金ヲ輕減スヘシトノ御指令アリ右輕減方假令ハ十圓ノ罰金可申

○名例律 ○犯罪自首

付本犯人ノ告ント欲スルヲ知テ首スレハ八圓ノ罰金申付總テ金高十分ノ一ヲ以テ一等ト心得可然哉

指令 明治七年五月十日 第九十四号

人ノ告ント欲スルヲ知テ自首スル者ト雖トモ其犯狀ニヨリ各輕重アルニ付輕減法預メ定規セサルハモト裁判官ノ意見ニ任カヌヲ以テナリ故ニ其時ニ臨ミ情狀ヲ酌量シテ自首律ニ照シ其本罪相當ト思量スル罰金高ノ内ニテ適宜ニ減等スヘシ

第五百五十七條

福岡縣伺 同七年五月二日

凡賭博ノ罪ヲ犯シ一旦處決ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯シ自首スル者モ首免ヲ與フヘキ哉又ハ悔悟心ノ薄キヲ以テ減等スヘキ哉

指令 同七年五月十九日 第九十四号

再ヒ同罪ヲ犯スト雖トモ過テ悔テ自首スル者ナレハ全免スヘシ

第五百五十八條

筑摩縣伺 同七年五月三日

改定律例第五十九條凡罪ヲ犯シ人ノ官ニ陳告セント欲スルヲ知テ自首スル者ハ本罪ニ一等ヲ減スル律ヲ改メ減二等ニ從フト有之候就テハ其強竊盜及ヒ詐偽シテ財物ヲ取リ或ハ枉法不枉法ノ罪ヲ受ケ人ノ告ント欲ルヲ知テ財主ノ所ニ於テ首還スル者モ事理ニ於テ均シ減二等ニ從ヒ處斷可然存候ヘ共律上正文無之候ニ付相伺候指令 同七年五月二十日 第九十五号

伺ノ通二等ヲ減スヘシ 但本犯自ラ露顯スルヲ畏懼シテ其盜ム物品ヲ以テ本主ニ首還セハ即チ未發自首ヲ以テ論シ其罪ヲ全免ス

○名例律

○犯罪自首

八一八 第五百五十九條

新潟縣 同明治七年五月十二日

變死ニ係ル屍ヲ私擅ニ埋葬スル者ハ追悔自首スト雖首死ヲ不與哉

指令 同七年五月二十三日 第九十六号

其犯情ヲ審糾スルニ毆傷ニ係累ナク追悔ノ事實相違ナキ者ハ首免ヲ與フ可シ

第五百六十條

愛媛縣 同七年五月十五日

故ラニ火ヲ放テ人ノ宅舎ヲ燒キ後ヲ自訴スル者首免ヲ聽ス可キ乎
又賠償ス可カラサル物ヲ毀棄スルニ論シ聽ス可カラサル乎

指令 同七年六月二日 第一百一号

首免ヲ與ヘス

第五百六十一條

愛知縣 同七年五月二十四日

本年五月四日別紙寫之 署ノ通盜犯盜取スル金ヲ費用スルノ後資産金ヲ以テ賠償シ自首スル者自首律ニ正條無之ニ付處分ノ儀相伺候處
同月十九日伺ノ通ト御指令相成右ハ犯罪自首條ニ照シ免罪ト相心得可然哉

指令 同七年六月三日 第二百二号

伺ノ通

但シ自首ハ全ク贓ヲ償フ者ニ非レハ全免ヲ與ヘス資金ヲ携ルト
追徴ニ係ルト差異アルコトナシ本犯ノ如キ即チ免罪

八一八 第五百六十二條

開拓使問合 同七年四月五日

竊盜一百圓ヲ盜ミ悉ク費用スルノ後人ノ陳告センヲ知り自首スル

○名例律 ○犯罪自首

者ハ改定律第五十九條凡罪ヲ犯シ人ノ陳告セント欲スルヲ知リ
自首スル者ハ本罪一等ヲ減スル律ヲ改メ減二等ニ從ヒ懲役二年半
ニ處斷シ勿論ノ儀ト存候ヘトモ又竊盜アリ同少百圓ヲ盜ミ皆費用
スルノ後眞實先非ヲ悔ヒ自首スル者改定律第六十四條ニ據レハ徵
スルヲ能ハサル罪ニ二等ヲ減シ罪ヲ科スト有之ニ付眞實悔悟ノ自
首モ人ノ告ノヲ知リ自首スルモ罪徵スル能ハサル者ハ各其罪同ノ
科斷致シ候事ニ候哉

回答 明治七年五月十
七日第百十三号

律ノ通御心得之アルヘキ事

第五百六十三條

滋賀縣伺 同七年五月
二十八日

改定律例第三百三條懲役人逃走シテ云々若シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス

者ハ自首法ニ照シ首免ヲ與フト雖トモ其逃罪及ヒ從新拘役ハ仍ホ
本法ヲ盡ストアリ脱監及越獄シ外ニ在テ又罪ヲ犯シ自首スル者モ
右ニ權衡ヲ取リ外ニ在テ犯スノ罪ハ首免ヲ與フト雖トモ加等ス可
キノ罪ハ本法ヲ盡シ候哉又ハ已決ノ者ト異ナルニ依リ在外ノ犯罪
及ヒ加等ス可キ罪モ並全免致シ候哉

指令 同七年六月二十
四日第百十四号

脱監及ヒ越獄シテ逃走シ外ニ在テ又罪ヲ犯シ自首スル者外ニ在テ
犯スノ罪ハ首免ヲ與フト雖モ逃罪ノ加二等ハ仍ホ本法ヲ盡ス

第五百六十四條

千葉裁判所伺 同七年六
月四日

神社境内ノ樹木ヲ私擅ニ伐採賣拂代金其社修繕ノ入費ニ遣拂フ者
自首スレハ其罪ヲ免シ可然哉

〇名例律

〇犯罪自首

指令 明治七年六月十日
第五百十五号
伺ノ通

第五百六十五條

豊岡縣伺 同七年六月二十五日

故ラニ墮胎ヲナシ過テ悔ヒ自首スル者首免ヲ與ヘ候テ可然哉

指令 同七年七月十日
第五百二十五号

首免ヲ與ヘル限リニ在ラス

第五百六十六條

愛知縣伺 同六年六月二十七日

甲詐偽シテ財ヲ取ラント謀リ乙ニ貸金有之趣ノ証書ヲ詐爲シ債却ノ儀乙へ掛合及フト雖ヒ負債ノ免無之旨相答遂ニ不相果追テ先非ヲ悔ヒ自首スル者アリ右ハ詐偽シテ財ヲ得サル者ヲ以テ論シ懲役

四十日自首スルヲ以テ其罪ヲ免シ可然哉又ハ私ノ文書ヲ詐爲スルヲ以テ論シ可然哉

指令 同七年八月二十日
第五百三十八号

取財ノ詐術成ラサルモ文書ハ已ニ偽爲スルヲ以テ例第二百四十六條ニ依リ處斷スヘキノ所自首スルヲ以テ免罪

第五百六十七條

東京裁判所伺 同七年九月十二日

贓罪ヲ犯シ自首スル者其贓即時追徴スルヲ能ハスト雖トモ賠償スヘキ目的有之親屬朋友等保証トナリ延期ヲ乞フ者ハ則當時追還スル者ト見做シ直チニ首免ヲ與ヘ可然哉

指令 同七年十月二日
第五百五十六号

賠償ノ確証アルキハ延期ヲ聽シ即時追徴スル者ト同ク首免ヲ與フ

○名例律 ○犯罪自首

第五百六十八條

青森縣伺 明治七年九月二十九日

當縣下警保見廻ノ者租稅未納爲督促巡村中盜賊ノ事跡有之捕縛取押候所深シ悔悟申出情實惘然ナル迎自己ニ放免致シ追テ右ノ所爲悔悟自首致シ該犯捕縛差出候右ハ追捕罪人條ヲ以テ論シ可然哉右見廻リ現行犯罪ノ者捕縛スルハ職分ト雖トモ律上ノ如ク捕吏差遣ヲ受タルトハ其情狀異ナリ候様被存候其事發覺前自首ニ付免罪ニハ候ヘ共本罪何レニ比擬シ可然哉

指令 同七年十月九日 第四百六十三号

事情重キ者ハ追捕罪人律ニ依ルト雖トモ本犯ノ如キハ違令或ハ違式ノ輕重ニ問フ可キ處已ニ首免ヲ與フル上ハ必シモ其本罪ヲ定メ

第五百六十九條

京都裁判所伺 同七年八月三十一日

新律犯罪自首條若自首シテ贓徵ス可カラサルハ二等ヲ減ス是其盜犯悔悟自首スト雖トモ贓徵スルヲ能ハス事主ノ損耗ニ係ルニ依リ全免ヲ聽サス減二等ノ法ニ從フカ若然ラハ今爰ニ盜賊二人アリ其一人過ヲ悔ヒ其重犯ヲ捕獲シ官衙ニ至リ投首スレハ犯罪共逃條ニ照シ首告ノ罪全免ス可キ所其自ラ盜ム所ノ贓已ニ費用シテ賠償スルヲ能ハサレハ仍ホ全免ヲ聽サス減二等ノ法ニ從フ可キ乎將ク是等ハ贓ノ徵不徵ニ係ハラス全免スルニ可有之哉果シテ然ラハ其首告者ノ罪ハ捕獲ノ功勞ニ依テ全免シ事主ノ損耗ニ至テハ官措テ願ミサルモノ、如ク而シテ其自首シテ贓徵ス可カラサル者二等ヲ減スルノ旨趣ニ相照合セサルニ似タリ

○名例律 ○犯罪自首

右同條自首シテ罪微ス可カラサルニ依リ二等ヲ減シ人ノ告ント欲
スルヲ知テ自首スル者モ同減二等ノ條例アリ然ルニ其盜犯ニ於ル
多シハ是實苦困難ノ者無智ノ所爲ニ出テ而シテ偶良心ヲ生シ過テ
悔ヒ投首ニ及フ者罪微スル能ハサルトテ其罪緩カニ二等ヲ減シ人
ノ告ント欲スルヲ知リ首出致シ眞ニ罪ヲ悔ルノ心ナキ者同二等ヲ
減スルハ其情狀ノ輕重ニ於テ斟酌ノ權衡如何可有之哉

指令 明治七年十月十三日
第一百六十六号

第一條 犯罪共逃條ハ事已ニ官ニ發シ禁ニ在ル者ヲ謂フ重犯及ヒ
同逃一半以上ヲ捕獲シテ首告スレハ其功以テ罪ヲ贖フニ足ル故ニ
其本罪ヲユルヌ本文ノ如キハ事官ニ發シ禁ニ在ルノ罪囚ニアラス
捕獲功勞ノ有無ニ論ナシ犯罪自首律ノ後項ニ依リ本罪ニ二等ヲ減
ス

第二條 悔悟ノ情ハ原ス可シト雖トモ事主ノ損失ヲ贖フヲ能ハス
故ニ本罪ニ二等ヲ減ス人ノ告ント欲スルヲ知テ自首スル者ハ罪微
ス可キモ二等ヲ減ス權衡不妥ニ非ス律例ノ通忒得ヘシ

第五百七十條 京都裁判所 同七年十月九日

竊盜律ニ處斷スル懲役人最前包藏スル二次ノ内一次ヲ首スルニヨ
リ減免ヲ與フル處又其一次ヲ再首スル者アリ右ハ改定律例第六十
六條減免ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯ス者ハ減免スルヲ聽サスト云
ニ比照シテ可然哉又ハ再首スト雖トモ其犯罪ハ曩ニ首スル罪ト同
時ノ犯ニ係ルヲ以テ初度ノ出首ト同ク減免ヲ與フル哉

但再首スル罪假令ハ賭博等ニテ別罪ト雖トモ最前ヨリ包藏スレ
ハ竊盜ヲ犯シ自首シテ減免ヲ經ルノ後又賭博ヲ犯シ首スル者ト

○名例律 ○犯罪自首

其情狀異ナレハ此亦減免ヲ與ヘスシテ可然哉又ハ律例第六十六

條前後犯罪各別云々トアルニ比擬シ減免可致哉

指令 明治七年十月二十三日 第三百七十三号

本文ノ如キハ再首ニ係ルト雖トモ先ニ減免ヲ與フル罪ト同時ノ犯罪ナレハ例第六十六條自首減免ノ後再々ヒ同罪ヲ犯ス者ト大ニ異ナリ初度ノ出首ト同シシ減免スルヲ聽ス
但書本條ト同ク首免ヲ與フ

第五百七十一條 司法省臨時裁判所 同七年十月

東京裁判所伺罪ヲ犯シ自首スル者其罪即時追徴スル能ハス云々
首免ヲ與ヘ可然哉ノ伺ニ賠償ノ確証アルキハ云々首免ヲ與フト之アリ右確証トハ如何ノ物ヲ云フヤ凡盜贓資力アル者ハ本犯ノ衣服

妻子ノ衣服炊具ヲ除ク外有ル限テ追徴ストアレハ自首ノ者ト雖モ決シテ猶豫ヲ與フ可キ者ニハ有開敷本犯其確証トス可キ程ノ品物アル時ハ如何様ニ致シ賠償ス可キ等保証トナル親族朋友モ亦如何様共融通致ス可キ等其本犯並保証人モ証トス可キ品物無之者ハ千萬人ノ保証アリト雖トモ又確証ト云フ可カラス萬一該犯首免ヲ與フルノ後贓徴ス可カラスモ既ニ首免ヲ與フルノ後ハ又貼斷ス可カラズ依テハ贓償完備ニ至ラサル以前決テ放免ス可キ者ニ有之開敷ト相考候ニ付此段相伺候
指令 同七年十月二十八日 第三百七十八号
確証トハ動不動産ヲ云フ首免ヲ與フルノ後追徴ノ出來サル理ナシ
東京裁判所へ指令ノ通心得ヘシ

○名例律 ○犯罪自首

〇三八 第五百七十二條

愛媛縣伺 明治七年十月十八日

懲役人逃走シテ自首スル者ニ區々アリ縱ニ役所ヲ離レ忽チ悔悟自首スルアリ或ハ逃走シ潜匿シ官百方探索スレモ縛ニ就カス四五日ヲ經テ偶懲役所ニ到リ前非ヲ悔ヒ自首スルアリ又ハ逃走ノ後所々徘徊スト雖モ身ヲ託スル地ナキヨリ一二月ヲ經テ一ノ親戚或ハ知己ニ依頼シ同道自首スルアリ此等ノ類仍ホ同ク一般ニ自首ヲ以テ論シ逃罪ヲ免スルヤ果シテ然ラハ尋常逃亡ニハ二年内外ノ別アリ犯罪自首律ニハ其情狀ノ區域アリ獨リ懲役人逃走ニハ其差等無之哉

指令 同七年十一月十三日 第百八十九号 伺ノ通

第五百七十三條

若松縣伺 同七年十一月十九日

岩代國耶麻郡今泉村農鈴木市太郎儀其子伊之次郎ト共ニ盜罪ヲ犯シ後チ人ノ官ニ告ント欲スルヲ知テ子伊之次郎ヲシテ一人ニテ盜取候旨可申立旨申付ケ詐リ自首致サシムル所伊之次郎儀最初父ノ罪ヲ押隠スト雖モ遂ニ審判ノ末前條ノ頗末ヲ吐露ス右市太郎己レカ罪ヲ隠シ子ニ命シテ詐リ自首セシムルナレハ其情名例律犯罪自首條相容隠スルヲ得ル者爲メニ代首シ及ヒ告言スル者ニ非スト雖トモ尙ホ自首ヲ以テ論シ本罪減免致シ可然哉

指令 同七年十二月四日 第百号

伊之次郎父市太郎ト共ニ犯スルヲ押隠シ人ノ告ント欲スルヲ知テ自首スル素ヨリ容隠ヲ得ル者ニ付自首ヲ聽シ二等ヲ減シ首從ヲ分テ罪ヲ科ス

〇名例律 〇犯罪自首

第五百七十四條

筑摩縣伺 明治七年十一月八日

改定律例第六十條凡罪ヲ犯シ云々並ニ罪ヲ免スト然ルニ爰ニ一罪
 共犯數名アリ其内幾名ハ已ニ告發ヲ經テ執縛或ハ喚問ニ係リ殘リ
 幾名ハ官未タ其名ヲ知ラサルヲ以テ捕拿喚問ノ儀ナキニ際シ自餘
 ノ犯者モ其執縛又ハ陳告セラレシヲ忍察シ自首スルモノアリ右
 ハ前項ノ如ク官未タ其名ヲ知ラサルモノニ付未發自首ト同ク其罪
 ナ免シ可然哉別紙山岸千代嶺外二人罪案(賭博同犯ノモノ就縛ヲ聞
 ナニ依テ直相添此段相伺候也)
 指令 同七年十二月二十
 二日 第二百九号
 賭博罪ハ現場捕獲及ヒ其一場ニ連ナル同類ノ者ヲ坐スルヲ律ノ適
 旨トナス此千代嶺外二人口供ノ如キハ官未タ罪犯ノ名ヲ知ラス自

首スル者ナルヲ以テ未發自首者ト同ク罪ヲ免ス

第五百七十五條

山口縣伺 同七年十一月二十四日

改定律第五十九條凡罪ヲ犯シ人ノ官ニ陳告セント欲スルコト知テ
 自首スル者ハ本罪ニ一等ヲ減スル律ヲ改メ減二等ニ從フト云因此
 視之新律財法ノ所ニ於テ首還スル者一等ヲ減スル條亦二等減ニ改
 マリタル哉將々自首ニ官私ノ區別有之哉
 指令 同七年十二月二十
 三日 第二百十号
 改定律例第五十九條ノ例ニ照シ減二等ニ從フ

第五百七十六條

白川縣伺 同七年十一月四日

御省日誌明治七年第百六十七號警前縣伺竊盜ノ嫌疑アリ捕縛鞠問

○名例律

○犯罪自首

ナルニ所持ノ物品ハ全ク盜品ニアラス曾テ私ニ姦通スル所ノ某ノ婦ヨリ借受ル物ノ由ヲ供ス云々ニ姦罪ハ不問ニ置ク但本夫親ヲ訴ル者ハ異ナリトスト御指令有之右磐前縣伺ノ儀ハ所謂糺彈中別ニ餘罪ヲ言フ者即チ自首ニ係ルト雖ヒ姦罪ハ自首ノ律ニアラサレハ仍ホ其本罪ヲ科スヘキニ本夫訴ヘサレハ不問ニ置クトナラハ名例律自首條ニ云フ所ノ姦罪ハ本夫ノ告ル者ニ限り候儀ニ可有之哉
指令 明治七年十二月二十
七日第二百十二号
伺ノ通

第五百七十七條

白川縣伺 同七年十一月二十八日

凡犯罪人既ニ就縛該術ニ護送ノ途中逃走スレハ捕亡律罪人拒捕條ニ照シ本罪上ニ二等ヲ加フヘキ者追テ悔悟シ出首スレハ逃罪ヲ免

シ本罪ヲ科スヘキハ無論ノ所其逃走後外ニ在テ又罪ヲ犯シ自首スル者ノ正條ナシ如此者ハ例第三百三條懲役人逃走シテ自首スル者ハ云々若シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ自首法ニ照シ首免ヲ與フト雖ヒ其逃罪及ヒ從新拘役ハ仍ホ本法ヲ盡スト云ニ比擬シ右逃走後ノ犯罪ハ自首法ニ照シ首免ヲ與ヘ逃罪及ヒ本罪ハ仍ホ本法ヲ盡シ可然哉

前條例第三百三條凡懲役人逃走シテ自首スル者ハ云々若シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ自首法ニ照シテ首免ヲ與フト雖トモ其逃罪及ヒ從新拘役ハ仍ホ本法ヲ盡スト有之處其外ニ在テ犯ス罪若シ人ヲ損傷スル等自首ヲ聽サ、ル罪ニ係ンハ逃罪ハ首免ヲ與ヘ可申哉
指令 同七年十二月二十
七日第二百十三号
第一條 脫監越獄ヲ以テ論シ本罪ニ二等ヲ加フ其他伺ノ通

○名例律

○犯罪自首

第二條 逃罪モ首免ヲ與ヘス

第五百七十八條

宮崎縣伺 明治七年十一月二日

本年御省日誌第四十六號ニ鹿兒島縣ヨリ犯盜發覺捕獲糺彈スル時未々告發ヲ經サル偽造寶貨若クハ賭博ノ事ヲ申告スル類ハ未發自首ニ同ヒ盜ノ一罪ヲ科ス可乎ノ伺ニ伺ノ通ト御指令相成居候然ルニ於テハ假令ハ一箇處ノ竊盜犯顯跡アルヲ以テ捕縛糺問ニ及フノ際未々告發ヲ經サル他處ノ竊盜罪ヲ斷庭ニ於テ自ラ供吐スル者モ自首ハ異ナル無キヲ以テ只發覺ノ一罪ノミヲ科シ他ノ竊盜罪ハ全免ヲ與ヘ其盜匪追徵ノ本法ノミヲ盡スヘキ哉

指令 同八年一月二十日 第五日第十四号

竊盜糺問ノ際他ノ盜處ヲ自ラ吐露スルハ則其本罪ヲ云フ也餘罪ヲ

吐露スルト云フヘカラス

但シ口供結案ノ際更ニ他ノ盜所ヲ吐露スルハ餘罪ヲ吐露スルニ比擬シ未發自首ト同シ減免スヘシ但シ鹿兒島縣伺竊盜糺問ノ際偽造寶貨等ヲ申言スル如キ則餘罪ヲ云フノ眞正の心得ヘシ

第五百七十九條

新川縣伺 同七年十一月二十七日

今般証券印紙改正規則御發行ニ就テハ諸帳簿ノ内假令ハ最初千圓ト見積相當ノ印紙貼用ノ上取引致候内誤テ千百圓付込他ヨリ發覺前心付自首候節ハ其罪ヲ免シ而シテ過剩金百圓ハ更ニ新帳ノ初丁ニ掲ケ其譯記載シ新規見積ノ内ニ結込候テ可然哉又過剩金相當ノ印紙ヲ本帳初丁ニ増貼爲致不苦哉

指令 同八年一月二十日 第八日第十六号

○名例律 ○犯罪自首

伺ノ通

第五百八十條

愛知縣伺 明治八年一月十三日

證券則則中第一類二類ノ帳簿ニテ七年九月一日前ノ規則ヲ犯シ帳簿餘白ヘ過剩ノ金員ヲ記載シ取引ノ末當今ニ至リ非テ悔ヒ出首スル者抄カラス右ハ科料ヲ免レ過剩ノ金員ハ更ニ新規則ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼ヒシメ可申哉又ハ舊規則ニ依リ納稅ヒシムヘキ哉
指令 同八年一月三十日 第十七号
舊規則ニ照シ納稅ヒシムルニ止ム

第五百八十一條

大阪裁判所伺 同七年十二月二十七日

遺失ノ金ヲ得テ官ニ送ラヌ於内若干ヲ花費スルノ後始メテ非テ覺

リ官ヘ首スル者ハ首ヲ准スト雖トモ缺ク所ノ數ヲ計ヘ贓ニ坐シ一等ヲ減シ罪ヲ科シ資力ノ限ヲ過シ失主ニ給ス可キヤ若シ全數ヲ備ヘテ首スル者ハ全免シテ主ト分給シ主ナキ者ハ全給スヘキ哉

指令 同八年二月五日 第十九号

伺ノ通

第五百八十二條

濱田縣伺 同八年一月十八日

爰ニ買客數名アリ俱ニ逆旅ニ投ス一名竊カニ他ノ一客行裝中ノ貨幣ヲ盜取スルニ物主之ヲ覺知シ稱シ同宿者ヲ糾尋スルヲ以テ潛ニ其盜贓ヲ投還スト雖トモ物主尙其事由ヲ推窮シテ止マズ茲ニ於テ盜犯罪ノ免ルヘカラサルヲ知テ犯情ヲ物主ニ訴ヘテ罪ヲ謝ス其情タル事ヲ法ヲ畏ル、ニ出テ過テ悔ヒ正ニ反ルノ者ニ非ス之ヲ律例

○名例律

○犯罪自首

ニ照據スルニ自首全免ヲ與フレハ寛宥ニ過ルカ如ク知告開捕等ニ依レハ又甚苛刻ナルヲ覺フ之ヲ處スル如何シテ可然哉

指令 明治八年二月八日第二十号

事主ヨリ其名ヲ指スニ非ス一般ヲ推窮スルニ首服スルハ未發自首ト同シ論ス若シ其名ヲ指シテ推窮スレハ竊盜未得財ヲ以テ論ス

第五百八十三條

筑摩縣伺 同八年一月二十五日

凡ソ人ヲ損傷シ及ヒ數萬金ヲ費スモ賠償スヘカラサル物品ヲ毀棄シ若シハ姦罪等ハ自首ノ限ニアラスト律上明文有之若シ官文書官印官廳通行印鑑諸懸札等ヲ遺失又ハ誤毀シテ首告スル者ハ首免ヲ與ヘ可然哉

指令 同八年二月十八日第二十五号

首免ヲ與ヘスト雖トモ即時ニ之ヲ拾得ル等ノ事ニ於テ害ナキ者ハ其罪ヲ免ス

第五百八十四條

山形縣伺 同七年十月二日

士族盜罪ヲ犯シ自首シテ贓ノ徵スヘカラサル者ハ改定律例第六十八條ニ比照シ減等セス閏刑ニ處シ破廉耻甚ヲ以テ論セスシテ可然哉

指令 同八年二月二十四日第二十七号

伺ノ通

第五百八十五條

東京裁判所伺 同八年一月十九日

府下古着古金等渡世ノ者取締規則揭示條款第七條不正品ト心付キ

○名例律

○犯罪自首

品觸ヲ待タズ或ハ品觸アリテ訴出ル者素規則ヲ背キ無判ニテ典賣
 買取スル者ト雖トモ則訴出ル上ハ自首ト同視シ其罪ヲ免シ原價ハ
 給セサル儀ニ有之哉ノ旨昨七年九月二十九日付ヲ以テ相伺候處一
 昨十七日伺ノ通ト御指令(本年第八号 五丁見合セ)有之然ルニ同十一月右揭示條
 款中改正ニテ已ニ右七條モ品觸アリテ速ニ訴出タル者ハ原價十分
 ノ八分ヲ下ケ與フヘシ若シ其者不正ノ處業有之トキハ相當ノ處分
 アルヘシト改正相成然レハ上文ノ如ク規則ヲ背キ無判ニテ典賣或
 ハ買取シ後ヤ不正ト心付又ハ品觸有之訴出ル者モ右改正ノ如ク其
 價ハ給スト雖トモ無判ノ廉ハ則不正ノ所業ト見做シ其罪ハ免サ、
 ル義ト可心得哉又前書伺ノ通首免ヲ與ヘ可然哉
 指令 明治八年二月二十
 四日第二十九号
 品觸アリテ速ニ訴出ル者不正ノ所業無之ニ於テハ原價十分ノ八分

ヲ下付スヘシ若シ不正ノ所業有之トキハ訴出ルヲ以テ首免ヲ與フ
 ト雖モ其價ヲ給セズ

第五百八十六條

福島縣伺 同八年二月二十八日

凡ソ罪ヲ犯シ事未タ發覺セズシテ自ラ出首スルニ推糺ノ際餘罪ヲ
 發露スル者二罪俱發ノ例ニ依リ處斷可然哉將餘罪ハ各別ニ處分及
 ヘキ哉

共ニ罪ヲ犯シ事未タ發覺セズシテ他方ニ出テ年月ヲ經テ復歸シ共
 犯人已ニ官ノ斷決ヲ經ルヲ聞キ自ラ出首スル者如何減等可然哉
 指令 同八年三月二十
 日第四十三号

第一條 未首ノ餘罪ハ各別ニ處分フ

第二條 自首ヲ與フル可キ犯罪ハ放免ス

○名例律

○犯罪自首

第五百八十七條

若松縣伺 明治八年三月九日

爰ニ盜犯アリ事主之ヲ疑ヒ面前詰問スルニ盜犯其罪ヲ蔽フニ術ナ
シ遂ニ事實ヲ白狀ス然ルニ其盜贓既ニ費用シテ烏有ニ屬スルヲ以
テ即時ニ辨償スルヲ得ス遂ニ事主ニ請ヒ數月ノ後辨償スヘキト約
スルニ事主之ヲ諾シテ私和スルヲ官偵知シテ捕得ス七年日誌第百
八十八號京都裁判所伺ノ御指令ニ事主未タ盜難ヲ官ニ告ケサル内
盜犯首服スル者ハ不問ニ置ト有之右ハ事主未タ盜犯ノ名ヲ知ラサ
ル内盜犯罪ヲ悔ヒ自ラ首服スルヲ以テ不問ニ置クモノニシテ該犯
ノ如ク事主ノ詰問ヲ受ケ罪ヲ蔽フニ術ナク已ムヲ得スシテ事實ヲ
白狀スル者ト大ニ異ナリ元來首服者ニ首免ヲ與フル者悔悟ノ情狀
アルヲ以テナラン該犯ノ如ク悔悟ノ實ナキ者固リ本律ニ依リ處斷

可然哉

指令 同八年三月二十七日第四十七号

伺ノ通

第五百八十八條

水澤縣伺 同八年三月二日

第一條 例第六十六條凡罪ヲ首シ減免ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯ス
者ハ減免ヲ聽サス若シ前後犯罪各別ナル者ハ此限ニ在ラスト若シ
竊盜ヲ首シ減免ヲ經ルノ後強盜ヲ首シ及ヒ強竊盜ヲ首シテ減免ス
ル後監守常人盜ヲ首シ若クハ準盜ヲ首シテ減免スル者再ヒ監守常
人強盜ヲ首スルノ類前後罪名異アリト雖トモ其盜罪タル一ナレ
ハ並ニ同罪ヲ首スル者ト同ク減免ヲ聽サス可然哉

第二條 強盜盜ニ眞犯アリ以論ノ罪アリ罪同ノ罪アリ準盜ニ詐欺

○名例律

○犯罪自首

恐喝取財等ノ別アリト雖トモ概シテ之ヲ稱スレハ強竊准盜ノ外ニ
出ス其恐喝ヲ首シ減免ヲ與フル者再ヒ詐欺取財ヲ首シ強竊盜真犯
ヲ首シ減免ヲ經ル後以論罪同ノ罪ヲ首スルモ並ニ同罪ヲ首スル者
ト見做シ可然哉

第三條 司法省日誌明治七年第八十二號豐岡縣へ御指令ニ初犯處
決ヲ經テ再ヒ同罪ヲ犯シ自首スル者全免シ三犯ノ時再犯ヲ以テ論
ストアリ則罪ヲ首シ全免ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯セハ最初全免ノ
罪ハ犯數ニ計ヘスト雖トモ其自首シテ全免ニ至ラス一等或ハ二等
ヲ減シ處決ヲ受ル者再ヒ同罪ヲ犯スニ本罪加等スヘキ者ハ最初減
等ニ處スル罪ハ無論犯數ニ計ヘ可然哉

指令 明治八年三月三十
一日第五十一号

三箇條共 伺ノ通

但シ棄毀器物等ノ准盜ハ此限ニアラス

第五百八十九條 白川縣伺 同八年三月
二十三日

第一條 牛馬賣買規則中私擅ニ鑑札貸渡候者ノ罰則無之若シ他人
ノ示談ニ應シ兼テ免許ノ鑑札ヲ貸渡候者ハ明治七年第二號御布告
酒造其外取締規則追加但書免許鑑札貸渡候者ハ免許料五倍ノ過料
トアルニ權衡シ牛馬賣買免許稅ノ五倍五圓ノ過料申付如何可有之
哉

但シ追テ悔悟自首スル時ハ其罪ヲ免シ可然哉

第二條 右同斷私擅ニ借受ケ牛馬賣買致ス者ハ仍ホ無願賣買ノ者
ト一般牛馬共ニ取上ケ免許稅十倍十圓ノ過料申付可然哉
但シ追テ悔悟自首スル時ハ其罪ヲ免スト雖トモ已ニ賣買スル牛

○名例律 ○犯罪自首

馬並ニ代價ハ追徴可致哉若シ既ニ費用スレハ追徴ニ及ハス候哉
第三條 右兩項人ノ告ケント欲スルコトヲ知テ自首スル者ハ其情ヲ
量リ輕減シ相當ノ過料申付可然哉

指令 明治八年四月二十
九日第六十六号

第一條 牛馬賣買鑑札ヲ貸借スル者ハ明治七年第三百三十一號布告
ノ通心得ヘシ

但書ハ伺ノ通

第二條 第一條指令ノ通

但書已ニ賣買スル牛馬並ニ代價ノ現存スルハ勿論其費用スルモ
ノモ尙ホ其代價ヲ取揚シヘシ若シ取揚シ可キモノ無キ時ハ身代
限リノ處分ニ及フ可シ

第三條 伺ノ通

第五百九十條

京都裁判所伺 同八年九
月三十日

漸律犯罪自首條ニ別居四等親以下ノ親屬爲ニ代首スルモ其本犯ニ
於ル減等ノ法ナシ然ルニ親屬相爲容隱條ニハ四等以下ノ親屬容隱
スルハ凡人ニ三等ヲ減ストアリ又干名犯義條其卑幼ヲ告ルニ實ヲ
得ルハ四等五等親ノ卑幼ハ本罪ニ三等ヲ減ストアリ若然レハ其別
居四等親以下ノ親屬ニシテ爲ニ代首スルモ其本犯ノ罪右親屬容隱
律及ヒ干名犯義律ノ減等ニ比シ是亦三等ヲ減セサレハ法律ノ權衡
平ヲ得サル様考ヘ候ニ付試ニ清律ヲ查候處犯罪自首條例ニ小功細
麻親首告得減罪三等云々相見候閉若其四等五等ノ親屬爲ニ代首ス
ルモノ於有之ハ本犯ノ罪三等ヲ減シ可然哉

指令 同八年十月二十
日第八十四号

○名例律

○犯罪自首

律例中明文ナキニヨリ事情ヲ酌量シ裁判官ノ見込ヲ以テ輕減スヘシ

第五百九十一條

大阪上等裁判所伺 明治八年十月二日

改定律例第六十六條凡罪ヲ首シ減免ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯ス者ハ減免スルコトヲ聽サス若シ前後犯罪各別ナル者ハ此限ニアラズト有之右同罪トハ罪名同キ者ノ事ニシテ假令ハ初メ竊盜ヲ犯シ自首シテ減免ヲ經ルノ後再ヒ竊盜ヲ犯シ自首スル者ノ如キヲ云フ乎若シ初メ竊盜ヲ犯シ自首シテ減免ヲ經ルノ後再ヒ強盜又ハ監守常人盜等ヲ犯シ首出スル如キハ監常強竊共ニ賊盜律ノ部類ニ係ルト雖トモ罪名ハ固ヨリ異ナル者ニ付減免ヲ與ヘ可然哉

指令 同八年十月二十日 第八十五号

監守常人強竊盜ノ犯罪前後相交リ再ヒ首出スル者ハ均シク盜罪タルヲ以テ同罪ヲ再ヒ首スルト爲シ減免ヲ聽ス(本儘)

第五百九十二條

東京裁判所伺 同八年十一月二日

第一條 竊盜三犯ノ者自首シテ贓徵スヘカラス者減等ノ義律ニ明條無之明治六年前第九號日誌香川縣伺ニ竊盜ノ科ヲ以再度處刑濟尙竊盜八圓ヲ犯シ自首シテ贓徵スヘカラス右ハ懲役十年ヨリ二等ヲ減スルヲ將テ前キノ犯數ヲ不問贓金一圓以上杖六十ヨリ二等ヲ減ス可キ哉ノ御指令ニ杖六十ヨリ二等ヲ減シ處決スヘシト有右ハ律例御頒布前ノ御指令且本年百三號御布告ニ依リ援引スヘキ者ニハ無之候得共向後モ尙同様ノ犯罪者ハ前文同一ニ處分シ可然哉

第二條 若前條御指令ノ如クナラハ持兇器強盜財ヲ得ル者ノ如キ

○名例律

○犯罪自首

モ自首シテ贓徴スヘカヲサルキハ強奪ノ情ハ首免ヲ與ヘ唯贓ヲ計
ヘ竊盜ヲ以テ論シ減等スヘキニ似タリ然リト雖トモ強竊ハ犯情自
ラ別ナル者ニ付右ハ強盜本罪ヨリ減等シ可然哉

第三條 自首シテ贓徴ス可ラサルニ依リ二等ヲ減シ及ヒ人ノ官ニ
陳告セント欲スルヲ知テ自首シ二等ヲ減シ處分スルモノ何ノモ
犯數ニ計ヘ候處一体右兩條ノ犯人真情ニ於テハ大ニ徑庭スル所ア
リ人ノ告ケントスルヲ知テ自首スル如ハ真心悔悟トモ難申贓不徴
ノ者ニ至リテハ真心悔悟スルモ其無力ナルヨリ止テ得ス減等ノ處
分ニ係ル者故右ハ犯數ニ計ヘサル方穩當ニ可有之哉

指令 明治八年十一月二
十四日第九十二号

第一條 伺ノ通

第二條 強盜ノ本罪ヨリ二等ヲ減ス

第三條 自首シテ贓徴ス可ラサル者ハ犯數ニ計ヘス

第五百九十三條

水澤縣伺 同八年五
月五日

二人共ニ罪ヲ犯スニ一人捕ニ就キ一人ハ未タ捕ニ就カス其捕ニ就
カサル者共犯人ノ已ニ拿縛セラル、ヲ聞キ己ノノ罪科モ從テ發露
セン事ヲ知り眞ニ罪ヲ悔ル心ナク畏懼ノ餘リ首出スル者アリ右等
ノ如キハ人ノ官ニ陳告セント欲スルヲ知テ自首スル者ヲ以テ論シ
可然哉

指令 同八年十二月
十九日第百号

伺ノ通

第五百九十四條

新治裁判所伺 同八年五
月二十日

○名例律

○犯罪自首

追捕罪人條第二項財ヲ受ケ故縱スル者ハ囚ト同罪トアリ今財ヲ受ケ二次故縱スルニ二次共賭博罪犯ニシテ其一次ヲ自首シテ一次ハ包藏ス然ルニ其包藏スル處ノ罪首スル處ノ罪ト同一ナルニヨリ不實ヲ以テ科シ難キ乎然リト雖トモ其匿罪ノ情責メサルヲ得ス依テ處分方相伺候

但シ受ル所ノ贓自首ニ係ル三圓包藏ニ係ル十圓

指令 明治八年十二月二十五日茨城裁判所へ達ス第三百三号

枉法贓三圓ハ首スルト雖トモ十圓ヲ包藏スレハ乃チ十圓ハ不盡ノ贓ナリ依テ枉法贓十圓ノ罪ヲ科シテ然ルヘシ

第五百九十五條

東京裁判所 同八年五月九日

博徒已ニ其事ヲナスノ際之ヲ捕獲セントスルニ丁リ逃走スル者後

チ悔テ自首スト雖トモ素ヨリ事發覺シテ自首スル者減等スル限ニアラサル義ト相心得居候處本年日誌五十三號京都裁判所ヨリ賭博者アリ捕吏ノ到ルヲ見テ逃走スル云々伺指令ニ但シ自首スル者聞捕自首ヲ以テ論ス云々ト之アリ果シテ然ラハ從容就縛者ハ本罪ヲ科シ一時逃走シテ自首スレハ減等ヲ得ルモ情實穩當ナラサルヲ覺フ若シ如此者逃走シテ五十日乃至二年以外ニ至リ首出スルモ其逃罪ハ首免ヲ與ヘ或ハ贖ヲ聽スモ本罪ハ猶減等セサル方ニハ有之聞敷哉

指令 同九年一月九日第二号

罪囚ノ罪ヲ畏レ逃走スルハ常ノ情狀ナレバ其逃走スルヲ以テ後チ自首ヲ聽サ、ルノ理ハ之ナシ已ニ自首ヲ聽ストセハ未首就捕者ト同シ論スルヲ得ス伺面ノ如キ聞捕自首ヲ以テ論スヘシ

○名例律

○犯罪自首

第五百九十六條

度會縣伺 明治八年十月四日

犯罪自首律ニ曰自首シテ贓徴スヘカラサルハ二等ヲ減ス又曰凡罪
 事已ニ告發ヲ經ルト雖トモ本犯未タ知ラス云々自首スル者
 ハ未發自首ト同シシ並ニ罪ヲ免スト譬ヘハ茲ニ二人共ニ金六十圓
 ヲ盜ニ三十圓ツ、贓ヲ分テ各逃走スル所ヲ異ニスル者アリ其從テ
 ル者先非悔悟シ分贓三十圓ヲ携ヘ自首スルモ尙全免ヲ得ヘカラス
 於是資力ヲ盡シ三十圓ヲ併セテ全贓ヲ償ヒ全免ヲ得ル後亦首ナル
 者モ其告發ニ至ルヲ知ラス悔悟シテ自首スルニ贓ハ已ニ從ナル者
 ニリ償ヒタルハ贓徴スヘカラサルモ全免ヲ得ルニ似タリ然レトモ從
 ノ旨ノ如ク分贓明白ナル上ハ前ニ從ノ償ヒタル三十圓ノ全數ヲ追
 シテ從ニ給ヒサルヲ得ス然ルルハ贓徴スヘキモノトシ全免ヲ與フ

ヘキ乎若シ然ラハ從ナル者ハ速カニ悔悟シ自首シテ一時全贓ヲ償
 ハサレハ全免ヲ得難キノ不幸アリ首ナル者ハ其悔悟モ遅クシテ却
 テ半贓ヲ償ヒ全免ヲ得ルノ幸アリテ權衡平ヲ得サルニ似タリ如斯
 ハ其首從ニ拘ハラヌ自首ノ前後ヲ問ハス分贓ヲ償ヘハ全免ヲ與ヘ
 可然哉

但其分贓全ク徴スヘカラサルハ其虧欠スル數ヲ計ヘテ罪ヲ定

メ二等ヲ減シテ然ルヘキ哉

指令 同九年一月十日
 八日第七号

分ツ所ノ贓ヲ追シテ其罪ヲ免ス
 但書伺ノ通

第五百九十七條

度會縣伺 同九年一月二十二日

○名例律

○犯罪自首

改定律例第六十八條ニ曰凡華士族罪ヲ犯シ人ノ告ント欲スルヲ知
テ自首スル者本條自首ヲ聽ス可キ者ハ罪減等セスシテ閏刑ニ處シ
云々ト若死罪ヲ犯シ人ノ告ント欲スルヲ知リ自首スル時ハ例第三
十條平民死罪ヲ犯シ贖罪スヘキ者無力ニシテ贖フ能ハサル者ノ權
衡ニ依リ一等ヲ減シ終身禁獄ニ處シ可然哉
華士族罪ヲ犯シ聞捕シテ自首シ減等ヲ得ルモノモ前條ト同シ減等
セスシテ閏刑ニ處シ可然哉

指令 明治九年二月十
三日第十七号

兩條共 伺ノ通

第五百九十八條

筑摩縣伺 同九年一月
二十七日

凡罪ニ公私アリ公罪ト稱スルハ公事及ヒ無心過誤ニ出テ私罪ト稱

スルハ私事及ヒ有心故造ニ出ツ故ニ其罪ヲ治スルモ亦從ツテ寬猛
ノ法アリ然ルニ改定律例第六十六條凡罪ヲ首シ減免ヲ經ルノ後再
ヒ同罪ヲ犯ス者ハ減免スルコトヲ聽サス云々ト夫公罪タルヤ前顯ノ
如ク公事及ヒ無心過誤ニ出テ之ヲ再ヒ犯スモ豈敢自ラ料ル所ナラ
ンヤ因テハ右律文ハ專ラ私罪ニ係リ公罪ニ及ハス其罪ハ再三ニ係
ルモ此限ニアラス自ラ出首スレハ減免ヲ聽シ可然哉

指令 同九年二月二十
五日第二十二号

伺ノ通

第五百九十九條

鶴ヶ岡縣伺 同九年二
月十五日

改定律例第六十七條華士族罪ヲ犯シ自首スル者ハ破廉耻甚ニ係ル
ト雖トモ本條自首ヲ聽スヘキモノハ一休ニ罪ヲ免シ除族スルノ限

○名例律

○犯罪自首

ニアラスト之アリ右一体トハ贖ヲ聽スヘキ罪モ閏刑ニ處スヘキ罪モ破廉耻甚ニ係ル罪モ一体ト云フ儀ナルカ又ハ強竊盜賭博或ハ違令違式等ノ諸罪ヲ指シ一体ト云儀ナル哉同第六十八條華士族罪ヲ犯シ人ノ告ント欲スルヲ知テ自首スル者本條自首ヲ聽ルスヘキ者ハ罪減等セスシテ閏刑ニ處シ破廉耻甚ニ以テ論セストアリ右ハ人ノ告ント欲スルヲ知テ自首スル者ニ限り候哉又ハ同第六十四條ノ如キ贓罪ヲ犯シ贓徴スヘカラスシテ二等減ノ者並ニ同第二百四十九條寶貨偽造ノ情ヲ知テ云々ノ二等減ノ者モ同第六十八條ノ權衡ニ依ルヘキ哉

若シ右第六十七條ノ一体ハ諸罪ヲ指シ云フコニシテ第六十八條ノ罪減等セスシテ閏刑ニ處ストアルハ人ノ告ント欲スル者ニ限ルトノコナレハ疑團ヲ懷カサルヲ得サルコアルナリ今爰ニ士族ニシテ

寶貨偽造ノ情ヲ知テ既ニ行使シ過テ悔テ自首スル者アリ第二百四十九條寶貨偽造ノ情ヲ知テ買使スルハ懲役終身若過テ悔テ自首スル者既ニ行使スルハ二等ヲ減ストアルニ依リ懲役七年ナリ假令減等スト雖トモ破廉耻ハ免カレサルニ依リ減等ノ儘處斷スルキハ實斷ノ七年當テ得タリト雖トモ六十(缺)條ニ依レハ自首スルニ依リ閏刑ニ處シ禁獄七年也六十八條ノ權衡ニ依レハ懲役終身タリ何レニ依リ處斷シ可然哉

指令 明治九年三月十日 第五日第三十一号

改定律例第六十七條ハ自首ヲ聽スヘキ犯罪ナレハ破廉耻甚ニ係ルト雖トモ都テ罪ヲ免スルノ義ナリ又全免セスト雖トモ自首スルヲ以テ減等スヘキ罪ナレハ人ノ告ントスルヲ知テ自首スルニ限ラス第六十八條ニ依リ減等セスシテ閏刑ニ處ス故ニ偽造寶貨ノ情ヲ知テ

〇名例律 〇犯罪自首

行使シ後自首スル者ハ第六十八條ニ照準シ禁獄終身ニ處斷スヘシ

第六百條

鶴ヶ岡縣伺 明治九年二月二十九日

人命放火姦罪等ノ自首ヲ聽サ、ルコトハ律ニ掲ケテ明文アリ然ルニ謀故殺及鬪毆殺等ヲ犯シタル罪人タルコトヲ知テ家ニ藏匿シ或ハ衣櫃ヲ給資シ他所ニ隱避セシメ置クノ後追テ過テ悔ヒ自首スルモノアリ情ニ於テハ頗ル惡ムヘシト雖トモ自カラ人命ヲ犯シタル者ニ無之上ハ首免ヲ與ヘ可然哉

指令 同九年三月二十日 第三十四号

首免ヲ與フヘシ

第六百一條

愛知縣伺 同九年二月二日

贓罪ヲ犯シ悔悟自首スル者アリ貧難無力ニシテ贓ノ徵スヘカラサルヲ以テ懲役終身以下既ニ減等シテ的決ヲ經ルノ後親屬等ヨリ其贓ヲ代償シテ放免ヲ請ヘハ既ニ役過セシ日數ノ贓金ヲ贓圖ニ照テ扣除シ未タ役セサル日數ノ贓ヲ親屬等ヨリ代償セシメ(假令ハ竊盜贓四十圓以上ヲ犯シ無力ニシテ償フ能ハサルヲ以テ本罪懲役百日ヨリ二等ヲ減シ懲役八十日ノ受斷ヲ經テ役ニ就クコトナレハ其役過セシ十日ノ贓十圓ヲ扣除シ未タ役セサル九十日ノ贓三十圓ヲ代償セシメ若シ一圓以下ノ贓ヲ犯シ懲役五十日ヲ減等シテ懲役三十日ノ受斷ヲ經シ者ハ役過ノ日數ヲ問ハス完贓ヲ代償セシメ又懲役八十日ヨリ減等シテ六十日ノ受斷ヲ經テ役ニ就クコト九日以内ナレハ零數ヲ除棄シテ七十日ノ贓十圓ヲ代償セシムルノ類)放免ヲ與フヘキ哉

〇名例律

〇犯罪自首

指令 明治九年三月二十
二日第三十六号

赃徴スヘカラスシテ已ニ實斷ヲ經ル者ハ後日親屬等ヨリ代償スル
ト雖トモ本犯ノ罪ハ減免スルヲ得ス

第六百二條

愛知縣伺 同九年二
月二日

常人官ノ財物七百圓ヲ盜ニ四百圓ヲ盜ムト自首スル者アリ本律常
入盜三百圓以上絞罪ニ該ル該犯ノ如キハ贓ニ不盡アリト雖トモ罪
ニ於テ盡サ、ル無キ者ノ如シ然ラハ不盡ノ贓ヲ以テ罪ニ坐シ絞ニ
入ル可ラス如此犯ハ全贓ヲ追徴シ得ルモ尙ホ不應爲重ニ問シ實斷
スヘキ哉

指令 同九年三月二十
二日第三十六号

罪已ニ盡ルハ伺ノ通ト雖トモ贓ノ不可徴者ハ重キニ從テ論スヘシ

第六百三條

堺縣伺 同九年三
月十二日

本年一月二十七日附ヲ以テ自首シテ贓徴ス可ラス及ヒ陳告自首聞
捕自首ノ者犯數ニ計フ可キ哉否相伺(第十七号六)候處自首シテ減等
ヲ得ルハ犯數ニ計フ可シト御指令有之御省日誌昨八年第九十二号
東京裁判所伺御指令ヲ閱スルニ自首シテ贓徴ス可ラサル者ハ犯數
ニ計ヘスト之レアリ夫レ陳告及ヒ聞捕自首減等ヲ得ルハ犯數ニ計
フルハ贓徴ス可ラサル者ニ至テハ元全免ヲ得可キ者ニシテ其無力
止ムヲ得サルヨリ減等科斷スル者ト被考犯數ニ計ヘサル方穩當ニ
可有之ト疑義ヲ生シ候條更ニ相伺候

指令 同九年四月二十
七日第五十一号

伺ノ通犯數ニ計ヘス

○名例律

○犯罪自首

第六百四條

度會縣伺 明治九年三月三十一日

律例第六十四條ニ罪ヲ犯シ自首スル者盜贓已ニ費用シテ追徴スル
不能ハサル者ハ二等ヲ減スルノ明文アリ明治七年御省日誌第五百
十六號東京裁判所ヨリ贓罪ヲ犯シ自首スル者其贓即時追徴スル
能ハサル者云々ノ伺御指令ニ賠償ノ確証アルキハ延期ヲ聽シ即時
追徴スル者ト同シノ首免ヲ與フトアリ之レヲ援引シテ苦シカラサ
ルヘキ乎若シ然ラハ強竊盜共ニ五十圓ツ、ヲ犯シ其贓ヲ費用シ自
首スルニ内止ヲ五十圓ヲ賠償スルノ資力アルキハ重贓ヲ前キニシ
強盜ノ贓ヲ追徴シテ首免ヲ與ヘ剩罪竊贓五十圓ヨリ二等ヲ減シテ
罪ヲ科シ其追スル金員ハ各事主ヘ分給シ可然哉
但罪犯強盜贓ハ已ニ費用シ竊盜贓ノミヲ將テ自首シ其贓分明ナ

ルニ於テハ強盜罪ノ減二等ニ從ヒ可然哉

指令 同九年四月二十
八日第五十二号

但書共同ノ通

第六百五條

磐井縣伺 同九年三月二十九日

本年御省日誌第十七号堺縣ヨリ盜罪賭博等再犯加等スヘキ罪ヲ犯
シ云々伺御指令ニ自首シテ減等ヲ得ル者ハ犯數ニ計フヘシトアリ
素ヨリ人ノ告ント欲スルヲ知テ自首シ又捕ヲ聞キ首出シテ減等科
斷ヲ經タル者ハ犯數ニ計フ可シト雖トモ盜罪ヲ首シ贓徴ス可カラ
サルヲ以テ減等科斷ヲ經タル者モ尙ホ犯數ニ計フルハ情理ニ於テ
聊カ穩當ナラサルヲ覺ニ如何トナレハ人ノ告ント欲スルヲ知テ自
首シ又捕ヲ聞テ首出スル者ハ眞ニ悔悟ノ念アルニ非ラス已ムヲ得

○名例律

○犯罪自首

サルニ出ルモノナリ而シテ贓徴ス可カラサル者ニ至テハ真心悔悟
首出シテ贓徴ス可キトキハ無論全免ヲ與ヘ將來又犯數ニ計ヘサル
モ儘カニ贓徴ス可カラサルヲ以テ減等科斷ヲ經タル者ナレハ自首
中自カラテ情狀ノ異ナルアリ依テ右贓徴ス可カラスシテ減等罪ヲ受
ケタル者ハ犯數ニ計ヘスシテ可然哉

指令 明治九年五月四日
日第五十六号

自首シテ贓徴ス可カラス減等スル者ハ犯數ニ計ヘス

第六百六條 熊谷裁判所 同九年二月四日

警ヘハ二次ノ盜(常人盜贓金一圓竊盜同一圓)ヲ爲シ内常人盜ノ一次
ヲ首シ已ニ免罪ノ處分ヲ經然ル後曾テ包藏スル竊盜ノ罪發覺スル
ルハ其罪加フ可キナキヲ以テ止メ贓ヲ追シテ不問ニ置キ可然哉斯

ノ如キハ犯罪自首條ニ依リ其不盡ナルヲ以更ニ竊盜罪ヲ全科シ然
ル可キ哉

指令 同九年五月十七日
日第五十九号

包藏スル竊盜ハ不實ナルヲ以テ竊盜罪ヲ科スヘシ

第六百七條 熊谷裁判所 同九年二月四日

第一條 犯罪自首條強盜ヲ竊盜ト首スレハ其不實ナルヲ以テ強盜
ノ罪ニ坐ストアリ若シ重罪ヲ首シ審問中又ハ已ニ免罪處分ノ後餘
ノ輕罪發覺スルルハ仍ホ曾テ包藏スル輕罪ヲ科シ可然哉

第二條 同上竊盜贓金百圓ヲ六十圓ト首スレハ其不盡ナルヲ以テ
仍ホ四十圓ノ罪ニ坐ストアリ若シ其盜贓金九圓ヲ一圓ト首スレハ
仍ホ八圓ノ罪ニ坐シ又六百圓ヲ三百圓ト首スレハ仍ホ三百圓ノ罪

○名例律 ○犯罪自首

ニ坐シ可然哉

第三條 同上自首シ贓徴ス可カラサルハ二等ヲ減ストアリ譬へハ竊盜百圓ヲ六十圓ト首シ贓徴ス可カラサルヲ以テ本罪ニ二等ヲ減シ懲役百日ノ處分ヲ經然ル後會テ包藏スル四十圓ノ罪發覺スルハ仍ホ四十圓ノ罪ニ坐スヘキハ勿論ニ可有之果シテ然ラハ若シ竊盜贓金十圓ヲ五圓ト首シ贓徴ス可カラサルヲ以テ本罪ニ二等ヲ減シ懲役四十日ノ處分ヲ經然ル後會テ包藏スル五圓ノ罪發覺スルハ仍ホ五圓ノ罪ニ坐ス可キヤ將タ此ノ如キハ二罪俱發ノ例ニ倣ヒ本罪懲役六十日ヨリ已ニ決スル四十日ヲ除去シ剩ル懲役二十日ヲ科シ可然哉

第四條 律例第五十九條人ノ官ニ陳告セント欲スルヲ知テ自首スルハ本罪ニ二等ヲ減ストアリ若シ二罪ヲ犯シ人ノ官ニ陳告セント

欲スルヲ知テ輕罪ヲ自首シ減等處分ヲ經然ル後會テ包藏スル重罪ノ發覺スルキハ仍ホ包藏ノ罪ヲ科スヘキヤ將タ二罪俱發以重論ノ例ニ倣ヒ處斷然ルヘキ哉

第五條 同上向キニ重罪ヲ首シ減等處分ヲ經然ル後會テ包藏スル輕罪ノ發覺スルキモ前條ト同シノ處斷可然哉

指令 明治九年五月十七日第五十九号

第一條 同ノ通

第二條 九圓ヲ一圓ト首シ六百圓ヲ三百圓ト首スルノ類ハ贓ノ不盡アリト雖トモ罪已ニ盡ルヲ以テ其罪ニ坐セス贓ノ徴ス可カラサル者ハ此限ニアラス

第三條 本罪懲役六十日ヨリ四十日ヲ除去シ餘ル二十日ヲ科スヘシ

〇名例律 〇犯罪自首

第四條 二罪俱發例ニ照シ前決ノ日數ヲ扣除シ餘ル日數ヲ科スヘシ

第五條 第四條指令ニ就テ會得スヘシ

第六百八條 京都裁判所伺

東京府平民同府第一大區十四小區蜘蛛町二丁目住尾崎鉄藏附籍池田房儀當府下ニ於テ竊盜三犯(明治五年六月東京裁判所ニ於テ竊盜ノ科ニ依リ杖六十叩ニ處セラレ尙ホ亦同年十月同所ニ於テ同科ニ依リ徒罪三年ニ處セラレ)並五十圓以下(今般擄摸罪並)ノ罪ヲ犯シ推問ノ際神奈川縣下横濱吉田新田松兼町二丁目住丸谷セイ同居池田秀之助ト詐稱シ且兩度ノ前科ヲ隱藏シ口供甘結ニ及ヒ終ニ竊盜初犯ヲ以テ徵役八十日處分ヲ受ケ服役ノ處偶役場ニテ説經アルニ際シ之ヲ僥倖トシテ聽問ノ上悔心ヲ生シ候休ニテ訴稱且前科包

藏ノ項ヲ自白致シ來リ其次第糾明中毫モ奸詐ノ情ヲ露サス收々悔悟ノ次第陳述スルニ付其儘口供甘結ニ及ヒ而シテ同人ノ罪ヲ論シ候コ氏名詐稱ノ項ハ未發ノ犯罪ニ依犯罪自首律ニ照シ未發自首ヲ以テ論スルモ其已決ノ前科ヲ供伸スルハ律ニ於テ處分ノ明文之ナシ故ニ今爰ニ竊盜アリ官三犯ノ賊タルヲ知ラスシテ捕獲勅スルニ罪犯ヨリ本罪ノ外曾テ同罪ニ依テ兩度處刑ヲ受ケ候段供出スル者ハ則チ並五十圓内外ヲ以テ十年終身ノ懲役ニ區處シ候儀ニ付其決放後前科ヲ吐露スル者モ同一ニ論シ則詐稱ノ罪ハ許シ竊盜罪ハ三犯並五十圓以下ナルヲ以テ更ニ懲役十年ニ改貼シ已ニ役スル日數ヲ扣除シ剩ル日數九年三百三十五日ヲ科シ候處豈圖ラシヤ該犯即時不服ヲ唱ヘ上告狀差出且日同人儀藝ニ東京裁判所ニ於テ竊盜再犯ノ科ニ依テ徒刑三年ノ處分ヲ受ケ服役罷在候時分竊盜三犯又ハ

○名例律 ○犯罪自首

四犯ノ者共犯罪推糺ノ際住所氏名ヲ詐稱シ且前科ヲ包藏シテ竊盜
 初犯ノ裁決ヲ經ニ且服役ノ上有詐稱且前科隠匿セシ次第悔悟セシ
 旨ニ申出因テ十年及ヒ終身ノ刑ヲ輕減セラレ處分ヲ受候義ヲ承知
 致居候旨ヲ以其先蹤ヲ陳述シ今般自身ニ於モ三犯十年ノ罪ハ輕減
 セラルヘキ等ノ旨申出依之ヲ考レハ全ク其身始メヨリ輕減ノ處
 分ヲ受クヘシト謀リ故サラニ住所氏名ヲ詐稱シ前科ヲ包藏シ初犯
 ノ罪ヲ受ク説經ヲ聽聞シテ始テ悔悟ノ情ヲ發シタル様申シナシタ
 ル奸詐ノ巧ニ顯然ニ之アリ然ルニ該犯申立候前科ヲ隠藏シ後自白
 スル者輕減ノ處分ニ及ヒ候儀當廳ニテハ未ダ曾テ承知不仕候間或
 ハ他裁判所等へ御指揮ノ次第モ之アルヘシヤト一應檢閲ニ及ヒ候
 入用相見へ不申就テハ清律ヲ查シ其比例ヲ舉ケ試候ニ輯註ニ曰ク
 監臨主守詐取所監守財物四十兩首爲借用官銀四十兩賍雖盡而詐取

之情未首是不實也應科詐取不得財之罪トアリ此犯ニ於ケル既ニ悔
 悟ノ實跡アルモ仍ホ詐取ヲ借用トナスニ依リ罪ヲ得タリ然ルナ況
 ソヤ右賸房ノ如キ前科ヲ吐露スルハ其己レ欲スル處ノ輕減ノ策ヲ
 遠ク得ントスルノ情狀ニ出ルニ過キヌ何ソ夫レ悔悟セシ者ト云フ
 一ヲ得ヘケンヤ則不實ノ深重ナル者ナリ故ニ爾來如斯罪犯アル仍
 ホ其不實ノ項ヲ復審シ別ニ其奸詐ノ罪ハ責スル本罪ハ改贖シテ更
 ニ懲役十年ニ科斷シ其奸ヲ責メ惡ヲ懲シ後來惡漢ヲシテ奸詐ノ術
 ヲ施スコ勿ラシムルノ處分ニ及ヒ度若シ然ラスノ之ニ首免ヲ與ヘ
 前刑懲役八十日ニモ指置ルハ怙惡不悛ノ徒忽テ之ヲ傳聞シ倍其惡
 ヲ逞シ爾來其加等ノ犯ニ於テハ各其前科ヲ包藏シ終ニ輕減ノ處分
 ヲ受ケンコ謀ニ至ラシカト憂慮ノ至ニ不堪候間此段奉伺候也
 追申本文賸房儀ハ即今已ニ上告中ニ付大審院ニテ相當ノ判決之

○名例律 ○犯罪自首

アル儀ニハ候ヘト向後裁判上心得方モ之アル儀ニ付本文ノ通相
伺候也

指令 明治九年十月十
二日録第一号

伺ノ通氏名詐稱ノ罪ハ自首ヲ聽スト雖トモ包藏セシ前科ハ首免ヲ
與ヘス竊盜三犯ヲ以テ處斷ス

第六百九條

長野縣伺

茲ニ甲乙丙アリ金錢ヲ賭シ博戯ヲ爲ス者アリ巡吏之ヲ撞見シ直チ
ニ捕獲セントスルノ狀ヲ偵知シ一同賭錢等其場ニ放棄遁逃スル
ノ後甲前非ヲ悔悟自首且ツ乙丙ノ黨類ナルト甲ノ供狀ニ罹レハ甲
ト同シシ糾治可致哉

指令 同九年十月十
三日録第一号

伺ノ通

第六百十條

東京裁判所伺

本年六月二十二日犯數ニ計ヘ加等スヘキノ罪犯審判ノ時前科ノ有
無審問ヲ受シレト包藏シ既決ノ後チ自首スルモ已ニ審判ノ時包藏
セシ罪ナルニ付首免ヲ與ヘス更ニ其罪ヲ科シ可然哉ノ儀伺候處伺
ノ通リト御指令有之然レハ罪犯ニ於テ前科有無ノ審問ヲ受ス已ニ
處斷ヲ經ル後前科有之ヲ仰供セサル段其非ナルヲ悔悟自首スル者
ハ首免ヲ與ヘ可然歟尙又此段奉伺候

指令 同九年十月二十
七日録第一号

斷決ヲ經タル前科ヲ自首スル者ハ審問ヲ受ルト否ニ論ナシ犯罪自
首ノ限ニアラス

○名例律

○犯罪自首

第六百十一條

東京裁判所伺

本年十月十四日犯數自首ノ儀首免ヲ與フル哉否ノ儀相伺候處同二
十七日斷決ヲ經タル前科ヲ自首スル者ハ審問ヲ受ルト否トニ論ナ
シ自首ノ限ニアラスト御指令(第一号第(八十九)有之然レ共其自首ノ情狀ニ
依リ裁判官ニ於テ情法ヲ酌量シ減等スル儀ハ無論不苦事ト存候ニ
トモ爲念今一應相伺候

指令 明治九年十一月十一日錄第四号

自首減等スヘキ者ハ犯罪自首條明文アル者ヲ除クノ外酌量輕減ス
ルヲ聽サス

第六百十二條

京都裁判所伺 同八年五月九日

改定律例第六十六條罪ヲ首シ減免ヲ經ルノ後云々前後犯罪各別ナ
ル者ハ此限ニアラストアルニユリ假令ハ竊盜ヲ犯シ首免ヲ經ル後
詐欺取財ヲ犯シ首告スルアルハ其罪名前後異ナルヲ以テ仍ホ首免
ヲ與フヘキ儀ト存候處司法省本年第五十一號水澤縣伺ノ御指揮ニ
依レハ曾テ強盜眞犯ヲ首シ減免ヲ經ル者又以論罪同準盜等ノ罪
ヲ犯シ首告スルハ再首ヲ以テ論シ首免ヲ與ヘサル儀ニ之アリ若シ
然レハ其不枉法ヲ犯シ首免ヲ經ル者又竊盜ヲ犯シ首告シ或ハ枉法
ヲ犯シ首免ヲ經又准枉法ヲ犯シ首スルモ仍ホ各再首ヲ以テ論シ首
免ヲ聽サ、ルニ可有之哉

果シテ前條ノ如クナルルハ假令ハ初犯竊盜ヲ犯シ首免ヲ經再犯常
人盜ヲ犯シ三犯竊盜ヲ犯シ四犯監守(七年六月當裁判所へノ御指
犯ハ竊盜三犯ヲ以テ論ス若シ三犯ノ)三十圓ヲ犯スモノ或ハ初犯詐
罪重キモノハ重キニ從ヒ論ストアリ

○各例律 ○犯罪自首

欺取財ヲ犯シ首免ヲ經二犯竊盜(此竊盜罪首告スルルル例第六十六條ニ依リ首免ヲ與フヘキ處水澤縣ノ御指令ニ依リ首免ヲ聽サ、レハ後ニ)ヲ犯シ三犯常人盜ヲ犯シ四犯論スル生死ノ迅速大ニ懸隔ヲ生ス(初犯首免ヲ經ルニ依リ三犯ヲ以テ論)監守盜三十圓ヲ犯ス如キアルハ其一ハ真盜四犯(初犯首免ヲ經ルニ依リ三犯ヲ以テ論)ニシテ絞ニ入り其一ハ同三犯(其再首竊盜初犯ヲ律例ニ依リ首免ヲ與フルルルハ監守盜三十圓以上再犯ノ一等ヲ加ヘ懲)ニテ絞ニ入ル其生死ノ境大ニ懸隔ヲ生セリ他邦ノ律ヲ考フルニ清律ニ曰竊盜已行而不得財笞五十免刺トアリ然レハ其竊盜假令初犯已ニ行フテ首告セサルモ財ヲ得サレハ刺ヲ免シ其三犯ニ至ルモ仍ホ二犯ヲ以テ論シ絞ニ入レサル儀ト相見ヘ況ヤ其監守常人竊盜初犯ヲ犯シ首告スルニ曾テ其以テ論シ同罪及ヒ準シ又ハ罪同等ノ罪ニテ首免ヲ經タルトテ其首告ヲ聽カス前顯ノ通處分ニ及フハ法律酷ク酸苛ニ過キ諸般ノ犯罪逐次輕減ニ從カハル、トハ權衡差違ヲ生シ且例六十六條ニモ矛盾スルニ似タリ

指令 明治九年十一月十四日錄第五号

第一條 同罪ヲ首スルトハ犯數ニ計ヘ加等スヘキ罪及ヒ一切犯罪前後罪名相同シキ者ヲ再ヒ首スル儀ト心得ヘシ

第二條 初メ准盜ノ首免ヲ經後ヲ竊盜ヲ犯シ首スル如キハ竊盜罪首免ヲ與フヘシ然ラハ權衡差違ヲ生セス

第六百十三條

大阪裁判所伺 同九年十月七日

竊盜三犯五十圓以下ノ罪ヲ犯シ捕獲糾問ノ節初再犯ヲ包藏セン爲メ名籍ヲ詐稱シ初犯ノ刑ヲ受ケ後ヲ本籍ヘ引渡ノ際生國姓名及ヒ前科ヲ自首スル者首免ヲ與ヘス懲役十年ニ處シ前決ノ日數ヲ扣除シ可然哉

指令 同九年十一月二十一日錄第七号

〇名例律 〇犯罪自首

已ニ断決ヲ經タル前科ヲ自首スル者ハ犯罪自首ノ限ニアラス懲役十年ニ處シ前決ノ日數ヲ扣除スル儀ト心得ヘシ

第六百十四條

東京裁判所 明治九年十一月二十一日

先般前科ヲ自首セシ者首免ヲ與フル哉否ノ儀相伺候處前科ヲ自首スルハ密問ヲ受ルト否トニ論ナシ自首ノ限ニアラスト御指令ニ付(第一号第 八十九)尙又自首ノ情狀ニ依リ裁判官ニ於テ情法ヲ酌量シ減等スル儀ハ無論不苦哉ノ儀相伺候處自首減等スヘキ者ハ犯罪自首條ニ明文アル者ヲ除クノ外酌量輕減スルヲ聽サスト御指令有之(第四百三 十六)右ハ素ヨリ犯罪自首條ニ依ルヘカラサル儀ハ最初御指令ニテ判然タリト雖トモ抑再度伺出候趣意ハ其罪犯ニ於ケル真心悔悟ニ出テ情狀憫諒スヘキ者ハ裁判官ノ權内ニ於テ情法ヲ酌量シ輕減ス

ル等ハ不苦哉ノ儀ニ有之然ルニ特リ犯數ヲ包藏セシ者ニ限り概シテ酌量輕減スルヲ聽サ、ルトノ御指令ノ意ニ候哉此段再應奉伺候

指令 同九年十二月二日 錄第九号

犯罪ノ情狀ニ依リ酌量輕減ヲ聽スノ儀ハ明治七年太政官第三百十四號ヲ以テ公布相成タリト雖トモ自首ノ情狀ニ依リ酌減スルノ法ハ犯罪自首條ヲ除クノ外明文無之ニ付先度指令ノ通心得ヘシ

第六百十五條

愛知縣 同九年十一月十五日

賭博犯罪ノ儀ニ付明治七年一月二十日白川縣伺ヘノ御指令(日誌七 七号十)ニ既往ノ犯事精密搜索ヲ遂クルニ及ハス止テ現行犯ニ限リ罪ヲ問フヘシ云々又明治八年一月二十二日和歌山縣ヨリノ伺ヘ賭博ノ犯罪現行ニアラサルモノハ追捕問罪ニ及ハス白川縣指令ノ通

○名例律 ○犯罪自首

處分スヘシト(日誌八年三十一号六丁)有之右兩御指令ニ基キ思想仕候得ハ其非
現行ヲ問ハサルハ無論ノ儀ニ御坐候得共爰ニ甲乙二人アリ乙ナル
者甲ニ懇恩セラレ圖ラヌ賭博罪ヲ犯シタル趣キヲ以テ自首スルニ
於テハ縱令年月ヲ經歷スルモ其刑名ニ觸ルヲ以テ裁判官ニ求刑
スヘキヤ甲ハ遺意タルモ隱匿シテ自首セサレハ不問ニ措キ可然哉
又賭博罪ハ素ヨリ現行ニ止マリ他ハ罪ナキモノトセハ乙ノ自首ト
雖トモ檢事ニテ聞置キ候迄ニテ敢テ求刑ノ手順ニ及ハスシテ可ナ
ルモノニ候哉

指令 明治九年十二月二
十五日錄第十二号

甲乙ノ犯罪ハ共ニ既往ニ係ル者ナレハ乙ノ自首ニ依テ發覺スト雖
トモ罪ヲ論スル限リニアラス因テ求刑ニ及ハサル儀ト心得可シ

第六百十六條

新潟裁判所 同九年十二月十二日

本省日誌明治七年第二十一号筑摩縣同婦人逃亡シテ二年以外復歸
シ及ヒ自首スル者ハ呵責ニ處スト御指令有之尋テ同七年第百号山
梨裁判所同男夫ニテ老少癡疾ノ者共同様婦人ノ權衡ヲ以テ呵責ニ
可處哉ニ伺ノ通ト御指令有之右兩所ノ伺文該條ニ就テノ男女及ヒ
老少癡疾者處刑輕重ノ權衡ヲ具陳シ盡シ有之ヲ以テ再ヒ開陳ニ及
ハス而シテ尙又同八年日誌第十二号愛知縣伺但書ニ婦人逃亡二年
以外ニ及ヒ復歸シ自首セサル者モ呵責ニ處シ可然哉トアルニ伺ノ
通ト御指令アリ之レニ依テ此レヲ見ルニ他管擅出五十日以下復歸
スル者ノ内復歸セサルモ素ヨリ収服ニ處スヘキ婦人及ヒ老少癡疾
者既ニ復歸自首スルハ無論正條ニ依リ免罪又復歸シテ自首セサル
ハ呵責ニ處シ候テ穩當ニ可有之ト存候處右正條無之少シク疑惑候

○名例律 ○犯罪自首

閉相伺候也

指令 明治九年十二月二
十五日錄第十二号

伺ノ通

二罪俱發以重論

第六百十七條

陸軍裁判所問合 明治六年七
月十四日

二罪俱發其一ハ違式註違等ノ罪ニシテ輕シ一ハ笞一十以上ノ罪ニ
シテ重キハ其重キニ處シ違式註違ノ罰金ハ徵セサル哉又ハ右等ノ
犯人ハ二罪俱發ト見做サ、ル哉

回答 同六年七月十
五日後第六号

二罪俱發ノ時其一ハ違式註違等ノ罪ニシテ別罪ヨリ輕キ者ハ一ノ

重ニ處シ違式註違ノ罪ハ不問哉云々御問合ノ趣致承知候右等ノ犯
罪ハ二罪俱發ノ例ニ無之各別ニ處分致ス儀ニ御坐候此段及御回答
候也

第六百十八條

濱松縣伺 同六年七月
三十一日

凡士族終身禁錮ノ閏刑ヲ犯シ又懲役百日以下ノ破廉恥甚ヲ犯シ二
罪俱發スレハ一ノ破廉恥甚ニ依リ科處シ候哉

指令 同六年八月十八
日後第三十三号

伺ノ通

第六百十九條

奈良縣伺 同六年七月
二十八日

爰ニ犯罪アリ一ハ常律ヲ犯シ一ハ諸稅罰則ヲ犯ス者常律贖金ト諸

○名例律

○二罪俱發以重論

罰金ト比較シ二罪俱發ト見做シ金數ノ多ニ依リ一ニ從テ科シ候テ
可然哉常律ト諸稅罰則トハ二罪俱發ノ限ニアラサル哉

指令 明治六年八月二十
五日 後第三十九号

二罪俱發律ヲ以テ論セス各自ニ罪ヲ科スヘシ

第六百二十條

福岡縣伺 壬申十二
月一日

二罪俱發以重論ノ部ニ云凡ソ二罪以上俱ニ發覺スレハ一ノ重キ者
ヲ以テ論シ云々過失殺傷ノ罪ト實決ノ罪ト二罪俱ニ發覺スルキハ
實決ヲ以テ重トナシテ論シ過失殺傷ノ収贖金ハ追徴セスシテ可然
哉左スレハ殺傷セラル、ノ家ニ給スル埋葬金醫藥ノ資ハ如何仕ヘ
シ哉

指令 同六年八月二十五
日 後第四十一号

過失殺傷収贖ハ罪名ニ非ス二罪ト謂ヘカラス故ニ實決ノ上殺傷ノ
収贖ハ法ノ如ク追給ス

第六百二十一條

千葉裁判所伺 同六年十
一月四日

改定律例第七十三條ニ云々トアリ依テ假令ハ竊盜罪六十圓以上ナ
ルヲ五十圓ト供認シ已ニ懲役一年論決ヲ經其役限内カ或役過スル
後又竊盜再犯罪一圓以下ノ罪ヲ犯シ不盡ノ罪共發スレハ更ニ半年
ト後犯ノ六十日併セテ半年六十日ニ科シ又其罪一圓二十圓以上ナ
ルヲ只一圓以上ノ罪ノミテ供認シ懲役六十日處決ヲ經ル後不盡ノ
罪發覺スレハ更ニ懲役九年ト三百五日ニ科シ可然哉
前條後犯ノ罪准盜或逃亡ノ類ニ係レハ二罪俱發以重論例ニ仍リ科
斷シ可然哉

○名例律

○二罪俱發以重論

指令 明治七年一月
七日 第二号

第一條 何ノ通

第二條 數次ノ犯罪俱ニ發覺スルニ非サレハ二罪俱發ヲ以テ論ス
ヘカラス本文ノ如キハ前罪論決後ノ犯罪ニ係ル前犯ノ不盡罪ハ改
定律例第七十三條ニ依テ處分シ後犯ノ罪ハ仍ホ律ニ依テ科斷スヘ
シ

第六百二十二條

京都裁判所 同六年十二月十三日

當裁判所ヨリ江州ノ産常吉ナル者竊盜三犯ノ罪ハ五十兩以下滿流
ニ該ルニ其初犯ノ罪所隱ノ竊盜罪七十二兩餘ヲ以テ折杖ニ三犯滿
流ノ上ニ加役スヘキ云々口供ヲ以テ相伺候處賊盜律竊盜條三犯五
十圓以下懲役十年但初犯供認不盡ノ罪云々二罪俱發ヲ以テ論シ三

犯ノ上ニ加等セスト御指令之アリ右ハ二罪俱發以重論條例後發ノ
罪ヲ以テ前罪ニ併セテ重キ者ハ更ニ加ヘテ全科スト云ニ照セハ滿
流十年ノ上供認不盡ノ罪ヲ以テ加重スヘキニ似タレヒ竊盜三犯ハ
獨リ罪數ノミヲ以テセス犯數ヲ併セテ罪ヲ定ムルニヨリ前後罪數
通計ノ法ヲ用ヒスニ罪俱發ヲ以テ論シ三犯ノ重ニ就テ斷シ前罪ノ
不足ヲ加役スルニ不及儀ニ可有之カ然ルニ曾テ當裁判所何ノ御指
令ニハ竊盜三犯五十兩以下流三等ニ擬シ初犯全數七十兩以上徒二
年ノ處七十兩押隠シ杖六十ノ處決ヲ經レハ其杖數ヲ除去シ剩ル折
杖一百八十徒一年半ニ該ス之ヲ今流三等ニ併セテ十一年半ニ至ス
ト又茨城裁判所齋藤要吉所斷何ノ御指令ニハ竊盜三犯五十圓以下
懲役十年ノ處再犯ノ罪初犯ヲ包藏スルニ仍リ懲役六十日ニ斷了シ
加等十日ノ不足ヲ生ス三犯ノ罪更ニ三犯ヲ包藏スルニ依リ杖六十

〇名例律

〇二罪俱發以重論

ニ處セラレシヲ以テ十年ノ内杖六十ヲ扣除シ懲役九年三百五日ノ處前十日ノ不足ヲ加ヘ懲役九年三百十五日トアルニ仍レハ前後通計シテ其不足ヲ加役スヘキニモ有之疑義難決候

指令 明治七年一月八日第二号

竊盜再犯ノ時贓金ノ數ヲ包藏シ三犯ノ時審糾ニ因テ再犯包藏ノ贓ヲ申供スレハ二罪俱發律ニ仍リ三犯ノ贓ヲ以テ再犯包藏ノ贓ニ併セ重ニ從ヒ若シ併セテ仍ホ輕ク若クハ等シキハ一ノ重ヲ以テ論シ再犯ノ贓ヲ以テ三犯ノ贓ニ併スルヲ得ス若シ自ラ首出スレハ自首ヲ以テ止ク三犯ノ贓ノミヲ以テ罪ヲ定ム

第六百二十三條

三潞縣伺 明治六年九月十九日

御省日誌後第六號陸軍裁判所問合書ニ御回答書面ヲ以テハ違式註

違等ノ罪ト別罪俱發ノ犯罪ハ二罪俱發以重論ノ例ニ無之各別ニ處分致ス事ト相見ヘ候然ニ假令ハ他村又ハ他人持場ノ秣ヲ斷ナク竊採ル處斷ヲ受ルヨリ毆傷ニ至ル類モ則違式ト闘毆各別ニ處分シ可然哉

指令 同七年一月八日第三号

違式註違等ノ罪ト別罪俱ニ發スルルハ陸軍裁判所回答ノ通り各別ニ處分スヘシ人ノ持場ノ秣ヲ斷ナク竊採ルヨリ遂ニ毆傷ニ至ル者ハ闘毆律ニ依テ處斷ス

第六百二十四條

滋賀縣伺 同六年四月二十二日

賊己レカ竊盜罪ヲ包マントテ其竊盜ヲ誣告スルノ類右ハ一ノ贓ヲレハ二罪ト雖トモ合贓致サズ哉

〇名例律

〇二罪俱發以重論

右同斷茲ニ竊盜ノ一罪アリ又一ノ竊盜ヲ經告スルハ兩罪合算候哉
若シ併セテ罪死ニ入ルハ一等ヲ減シ流三等ニ止リ候哉又ハ終身懲
役ニ處シ候哉

指令 明治七年二月十
四日第三十五号

第一二條 一ノ重ニ從テ處斷ス兩罪合併ノ限ニアラス

第六百二十五條

宮崎縣伺 同七年三
月十三日

凡過失殺傷ノ罪ヲ犯シ又銃砲規則ヲ犯シ違式註進ニ觸レ一時俱發
ノ者ハ二罪以上俱發ノ條ニ依リ處分可仕哉

指令 同七年三月二十
三日第六十号

律例中ノ犯罪諸罰則及違式註進等ノ犯罪ト俱ニ發覺スル時ハ二罪
俱發ヲ以テ論スル限ニアラス各自ニ處置スヘシ且過失殺傷ハ律例

中他ノ犯罪ト俱ニ發覺トス雖トモ二罪俱發ヲ以テ論スヘカラス其
犯罪ハ律ニ仍リ科斷スルノ上仍ホ收贖金ヲ追給ス何トナレハ過失
殺傷ノ收贖金ハ殺傷セラルノ家ニ給シ埋葬及ヒ醫藥ノ資ニ爲ス
カ故ニ過誤失錯ノ贖罪金トハ異ナレハ也

第六百二十六條

島根縣伺 同七年五
月十八日

一ノ竊盜アリ之ヲ捕ヘ糾問スルニ其贓金一圓餘其本籍ヲ尋ヌルニ
父母流浪中ニ出生シ幼少ニシテ父母ニ別レ本籍何レタルヲ知ラス
ト答フルニヨリ竊盜罪ヲ科シ懲役場ニ付シ置キシニ此頃歸思ノ切
ナルヨリ本籍ヲ吐露ス然ルニ素ト逃亡竊盜二罪俱發ナルヲ籍ノ附
スヘキナキニヨリ竊盜罪ヲ科シ今又逃亡罪ヲ科スルハ重複ノ姿ニ
テ其儘放免スレハ杖二十ヲ假シ依之如何處分可然哉

○名例律 ○二罪俱發以重論

指令 明治七年六月十日 第三百八号
二罪俱發以重論律內明瞭ナリ

第六百二十七條 白川縣伺 同七年五月十四日

二罪俱發ノ時其一ハ違式註違等ノ罪ニ係ルハ二罪俱發ノ例ニ無之
各別ニ處分スヘシト御省日誌明治六年第六号陸軍裁判所ヘノ御回
答相見候處若シ違式ノ罪ヲ一同ニ犯スコト二條以上若シハ違式ト註
違トノ罪俱ニ發スル時ハ如何處分可然哉

指令 同七年六月十日 第五百十号
各別ニ處分スヘシ

第六百二十八條 島根縣伺 同七年七月八日

處刑濟送致中途ニアリ及ヒ無籍無産ニシテ授産場ニアリ逃走スル
者並ニ棒鎖一日ト本年第八号ヲ以テ御布達相成候處今爰ニ處刑濟
本貫ヘ送致中途ニアリ逃走シ不日鬪毆罪ヲ犯シ縛ニ就クモノアリ
之ヲ處スルニ逃走ノ罪ハ棒鎖一日ナリ鬪毆ノ罪ハ梃棒ヲ以テ人ヲ
毆キ傷ヲ成サ、ル者ナルヲ以テ懲役三十日ナリ右ハ棒鎖一日ノ上
懲役三十日ニ處斷シ可然哉將々二罪俱發ヲ以テ論スヘキカ若シ二
罪俱發ヲ以テ論スルトキハ棒鎖一日ハ原答一十至五十ト名例ニ相
見候得ハ懲役三十日ト孰レヲ重トシ科斷シ可然哉

指令 同七年八月二十日 第五百四十号
當省本年第八號布達首項ノ棒鎖ニ科スル者ハ同第十三號布達ヲ以
テ違式ニ改正ス本文ノ如キハ三罪俱發以重論律ニ依リ處分スヘシ

○名例律 ○二罪俱發以重論

第六百二十九條

千葉裁判所 明治七年七月二十二日

罪先ニ發シ已ニ懲役八十日決放ヲ經テ餘罪後ニ發シ其罪懲役二年半ニ該ル者ハ二罪俱發律後發ノ罪重キハ更ニ論シ前罪ニ通計シ後數ニ充ツトアルニ仍リ後發ノ懲役二年半ヲ原杖ニ折シ三百内先發已ニ決スル懲役八十日ヲ除キ剩ル原杖二百二十ヲ懲役一年ト三百〇四日ニ科シ可然哉

指令 同七年八月二十八日 第四百四十二号

懲役二年半ノ内役過スル八十日ヲ除キ剩ル懲役二年ト百日ヲ役ス折杖法ニ依テ計算スルコトヲ用ヒス

第六百三十條

置賜縣 同七年七月七日

稅糧ヲ納ムルニ管廳ノ限ニ違フテ完セサル者明治五年第二百八十

五號御布告ニ仍リ息金ヲ追スヘシト雖トモ仍ホ別罪ヲ犯シ二罪俱發スルハ諸罰則ヲ犯スト同シ各別ニ處分可致哉

指令 同七年十月二日 第五百五十七号

同ノ通

第六百三十一條

京都裁判所 同七年十月二十三日 日誌第四百七十三号

昨明治六年七月八日附キ以テ伺出ニ相成候第三條ノ指令再議ノ次第有之候ニ付別紙ノ通改定候條此段及御達候(丙篇第二千百十三條見合)

別紙

二罪俱發ヲ以テ論シ賭博ノ罪禁獄八十日ヲ原限ニ加フヘシ

第六百三十二條

滋賀縣 同七年六月十四日

〇名例律 〇二罪俱發以重論

御省本年第八号御布達ニ處刑濟送致中途ニ在リ及ヒ無籍無産ニシテ授産場ニ在リ逃走スル者並ニ棒鎖一日鞠問中逃走シ遂ニ無罪トナル者亦同トアリ右等ノ者若シ逃走ノ後罪ヲ犯ストキハ棒鎖一日ノ上其罪ヲ科シ候儀ニ候哉又ハ二罪俱發ノ例ニ照シ處分スル儀ニ候哉

但シ本文二罪俱發トナシテ論スルトキハ棒鎖一日ハ原答一十ヨリ五十ニ至ル者ニ換フルヲ以テ假令ハ鞠問中逃走シ他管ニ出テ五十日ヲ過ルトキハ違令重懲役四十日何レヲ重トシ可然哉

前條二罪俱發ノ例ニ仍ルニアラサルトキハ獄司專決ノ罪ト相心得可然哉

指令 明治七年十一月十五日第九十二号

第一條 本條但書共當省本年第十三号布達ニ仍リ二罪俱發ヲ以テ

論ス

第二條 前文ニテ會得ス可シ

第六百三十三條

大阪裁判所伺 同七年十一月四日

本省日誌本年第十六號濱松縣ヨリ尾張國愛知郡甚目寺村山口徳次郎處刑伺ニ脱籍無産ノ者授産場ヲ逃走シ外ニ在テ竊盜徒班一圓以下ヲ犯ス棒鎖一日ノ上懲役四十日ト御指令有之同百五十一號敦賀縣伺第五條送籍中途ニ在リ及ヒ無籍無産ニシテ授産場ニ在リ云々假令ハ逃走ノ上再ヒ竊盜ヲ犯スハ二罪俱發ヲ以テ論シ一ノ竊盜罪ヲ科スト御指令有之最モ敦賀縣伺ハ棒鎖一日ヲ止メ違式輕實斷ト御改正ノ後ニ在ルヲ以テ加役致サ、ル儀ニ候哉同ク逃走ノ罪ニシテ一ハ二罪俱發ヲ以テ論シ一ハ各別其罪ヲ科ス疑義難決如何相心

〇名例律

〇二罪俱發以重論

得可然哉

指令 明治七年十二月十日 第二百七号

本年當省第十三号布達ニ仍リ二罪俱發ヲ以テ論ス

第六百三十四條

愛媛縣伺 同七年十一月二十五日

平民官ニ在ル者ノ父母兄弟子孫罪ヲ犯セハ律例第二十五條ニ照シ
士族ニ準シテ論シ破廉耻甚ニ係ル者ハ平民ヲ以テ論スト有之然ル
ニ閏刑ニ該ル禁獄十年ノ罪並ニ破廉耻甚キニ係ル懲役百日以下ノ
罪俱發スレハ閏刑ノ罪重シト雖トモ律例第七十五條ニ照準シ懲役
百日以下ノ刑ニ坐スヘキ哉

指令 同七年十二月二十日 第二百九号

同ノ通律例第七十五條ニ依リ一ノ破廉耻甚キ以テ論シ實決スヘシ

第六百三十五條

山口縣伺 同七年十一月二十四日

獄囚及責付人甘結擬律後再ヒ犯罪スル者二罪俱發以重論律一罪先
ニ發シ已ニ論決ヲ經テ餘罪後ニ發スルト謂フヲ以テ可論哉又ハ前
罪ヲ科シ了リ再ヒ後罪ヲ可科哉

指令 同七年十二月二十日 第二百十号

甘結擬律後ト雖トモ宣告前ニ係ルハ二罪俱發ヲ以テ論ス

第六百三十六條

秋田縣伺 同七年十一月十五日

士族ニシテ逃亡シ他管ニ在テ許多ノ星霜ヲ重ルニ當時藩制中ニ係
ルヲ以テ該犯ノ審糾ヲ待タズ已ニ除族セラル、者二年以外ニ至リ
漂流中他管ニ於テ仍別罪ヲ犯シ捕ニ就クキハ二罪俱發ノ例ニ照シ

○名例律 ○二罪俱發以重論

一ノ重ニ從リ科スヘキ哉將テ審判中已ニ除族セラル、ヲ以テ逃亡ノ罪ヲ論セス平民ト看做シ當犯ヲ科シ可然哉
指令 明治七年十二月十八日 第二百一十一号
二罪俱發ヲ以テ一ノ重ニ從テ科ス

第六百三十七條

濱田縣 同七年十一月二十五日

凡罪ヲ犯シ鞫問中親屬隣保等ニ責付中逃走シ後之ヲ捕縛スルニ再逃走スル者ハ責付及捕縛中逃走ノ罪ヲ本罪上ニ累加スヘキ乎或ハ再度ノ逃走ハ二罪俱發ヲ以テ論シ一ノ重キ捕縛中ノ逃走ヲ本罪上ニ可加乎
指令 同八年一月九日 第四号
二罪俱發一ノ重キヲ以テ論スヘシ

第六百三十八條

廣島縣 同七年十二月二十二日

發ニ十圓五十錢ノ竊盜アリ内一圓五十錢ハ縣社拜殿ノ金具ヲ盜ニ付改定律第二百二十三條ニ照シ盜大祀神御物條釜甕刀匕ノ屬ヲ盜ニ準シ竊盜罪ニ一等ヲ加ヘ懲役七十日申付剩ル九圓ノ竊盜罪ニ二罪俱ニ發スル例ニ照シ不問ニ置可然哉尤事小異アリト雖トモ本年御省日誌第七十一號一第大坂裁判所ヘ御達書ニ竊盜罪十五圓餘懲役七十日再犯ニ係ルヲ以テ一等ヲ加ヘ二十圓懲役八十日ト做シ詐欺取財ノ罪九十五圓餘ニ併セテ百十圓以上懲役七年ニ處スヘシトアリ是ヲ以テ推類シハ前章モ亦併罪シテ十圓以上懲役七十日ヘ一等ヲ加ヘ懲役八十日ニ處シ可然哉果シテ然ラハ縣社盜罪ヲ併シテ十圓以上ニ相成然ルヲ又加等スル時ハ名例律二罪俱發條例首從ノ罪

○名例律 ○二罪俱發以重論

並發スルハ從賍多キハ併セテ一等ヲ減スル例ニモ矛盾スルニ似タ
リ仍テ如此ハ只併賍シテ加等セステシ可然哉
指令 明治八年一月
十七日第十号
伺ノ通併賍シテ加等セス

第六百三十九條

京都裁判所伺 同七年十二月二十八日

竊盜再犯懲役百日以下ノ者前科ヲ包藏シ初犯ヲ以テ處斷ヲ受ルノ
後仍ホ違令ノ罪ヲ犯スロ依テ其包藏ノ罪發覺スルアレハ二罪俱發
例ニ仍リ一ノ重違令ノ罪ヲ可科哉將ク是等ハ其二罪各別ニ處分ス
ルニ可有之哉

同上ノ者二罪俱發例ニ依テ論スル儀ニ候ハ、假令ハ竊盜再犯懲役
一年半ニ決ス可キ所其前科ヲ包藏スルニ依テ一年ニ決シアル者仍

懲役百日以下ノ罪ト併發スルアルハ一ノ重半年ヲ科スルハ論ヲ俟
タサレモ其再犯懲役七年ニ決スヘキ者前科ヲ包藏スルニ仍テ五年
ニ決シ再犯二年ノ不足アル者又別ニ二年ノ罪併發スルアルハ何レ
ニ從ヒ科斷スルニ可有之哉
指令 同八年一月二十
二日第十二号
第一二條 二罪俱發ヲ以テ論セス各別ニ處分スヘシ

第六百四十條

三浦縣伺 同七年十二月二十七日

賭博竊盜等三犯推問中ノ者前度再犯ノ節初犯ト申詐リ初犯ノ處刑
ヲ受候段發露ニ及フ時再犯加等スヘキノ剩罪ハ二罪俱發ト看做シ

除棄可然哉或ハ更ニ剩罪ヲ科シ然ル後三犯ノ本罪ニ處シ可申哉

指令 同八年一月二十
二日第十二号

○名例律

○二罪俱發以重論

伺ノ通更ニ刑罪科シ然レ後三犯ノ本罪ニ處ス

第六百四十一條

警視廳伺 明治七年十月十三日

逃式犯罪ノ者二罪以上俱發候節ハ本律二罪俱發ノ例ヲ以テ處分致
來候處元來違註條例ノ儀ハ律外一種ノ罰則ト見做候時ハ二罪以上
俱發ノ者モ各別ニ論シ候方相當ニ可有之評議致シ候右ハ如何處分
候ヲ至當ニ可有之哉

指令 同八年一月二十四日第十三号

違註犯罪ノ者二罪以上俱發スル時ハ各自ニ科スヘシ(七年第一百十號
同第三)但シ改定律例第二百八十八條ハ此限ニアラス

第六百四十二條

水澤縣伺 同七年十二月二十五日

明治六年司法省日誌第五十七号白川縣ヨリ肥後國下益城郡新田村
喜悅七藏竊盜贓四十圓餘已ニ杖一百處斷ヲ經ルノ後尙不盡ノ贓四
十圓餘發覺スル伺ノ御指令ニ例第七十三條ニ仍リ併贓シテ九十圓
餘首從ノ贓並發スルニ付一等ヲ減シ已ニ決スル杖一百ヲ扣除シ刺
ル日數ヲ科シ懲役二年ト八十二日トアリ本年同日誌第二号千葉裁
判所伺中第四條竊盜六十圓以上ナルヲ五十圓ト供認シ已ニ懲役一
年論決ヲ經タル後又竊盜再犯贓一圓以下ノ罪ヲ犯シ不盡ノ贓並發
スレハ更ニ半年六十日ニ科シ又其贓一百二十圓以上ナルヲ只一圓
以上ノ罪ノミヲ供認シ懲役六十日處決ノ後不盡ノ贓發覺スレハ更
ニ懲役九年ト三百五日ニ科スヘキヤノ御指令ニ伺ノ通トアリ同第
五條前條後犯ノ罪準盜或ハ逃亡ノ類ニ係レハ二罪俱發以重論例ニ
仍リ科斷スヘキヤノ御指令ニ云々本文ノ如キハ前罪論決後ノ犯罪

○名例律 ○二罪俱發以重論

係ル前犯ノ不盡贓ハ例第七十三條ニ仍テ處分シ後犯ノ罪ハ仍ホ律ニ仍テ科斷スヘシトアリ右ハ何レモ同一ノ御指令ニ御坐候處同號京都裁判所ヨリ同斷伺ノ御指令ニハ竊盜再犯ノ時贓金ノ數ヲ包藏シ三犯ノ時審糾ニ因テ再犯包藏ノ贓ヲ申供スレハ二罪俱發律ニ仍リ三犯ノ贓ヲ以テ再犯包藏ノ贓ニ併セ重ニ從ヒ若シ併セテ仍ホ輕シ若シハ等シキハ一ノ重ヲ以テ論ス云々トアリ右ハ何レヲ正トシ接引スヘキヤ甚疑念ヲ生シ候然ルニ例第七十三條ノ意義篤ト勘味仕候ヘハ論決ノ時包藏セル贓後日發覺スレハ其以前決スル節ノ贓ニ併セ輕重ヲ計リ加否ノ別アルノミニテ後犯ノ罪ニ關スル譯ニ無之即チ千葉裁判所伺御指令ノ通り後犯ノ罪ハ更ニ科斷スル方允當ナル哉ニ考ラレ候右ハ如何相心得可然哉

指令 明治八年一月二日
十八日第十六号

千葉裁判所へ指令ノ通心得ヘシ

但シ京都裁判所へノ指令ハ竊盜再犯ノ時贓金ノ數ヲ包藏シ三犯ノ時審糾ニ因テ再犯包藏ノ贓ヲ申供スル者ヲ謂フ初犯包藏ノ贓再犯ノ時發覺スル者ト同シカラス故ニ二罪俱發律ニ仍リ一ノ重ニ從テ罪ヲ科ス

第六百四十三條

京都裁判所伺 同八年一月二十七日

裁判所取締規則改正第九條ニ刻限呼出ヲ受タル者云々斷獄課ニ廻シ違式ノ輕重ニ問ヒ相當ノ罰金ヲ科スヘキ事ト有右ハ違式輕重ニ問ヒ其金員ヲ追スト雖トモ罰金ノ名義ナルヲ以テ諸罰則ノ罰金ト同一ニ看做シ老小婦女等ノ區別無之乎ト心得居候處大阪裁判所ヨリ婦女ノ犯者處分方伺ニ本年一月七日付御指令(本年第二号)裁判所

〇名例律 〇二罪俱發以重論

取締規則云々改正候ニ付律ニ照シ収贖ニ處スヘシトアリ然レハ第九條ニ罰金トアルハ律ニ於テノ贖金ト思慮セサルヲ得サル乎果シテ然レハ假令ハ不參ノ罪ト毆罵ノ罪ト並發スルキハ二罪俱發ノ例ニ依ルヘキヤ若クハ又不參ノ罪ハ仍ホ罰金ノ名義ナルヲ以テ毆罵ノ罪ト各別ニ處分スヘキ哉右罰金ノ文字ニ於テ甚ク疑義ヲ生シ候

指令 明治八年二月七日第十九号

裁判所取締規則第九條改正後ハ雜犯律違式ノ輕重ニ問ヒ贖ヲ聽スヲモツテ二罪俱發等總テ本律ノ例ニ從フヘシ

第六百四十四條

水澤縣伺 同八年二月

常律ト罰則ト並犯シ若クハ一次ハ盜種一次ハ郵便等ノ諸規則ヲ犯シ一時俱發スル者ハ廉々各別ニ處分スヘキ旨御省日誌御指令中ニ

散見致シ候處譬ハ第二類貸借金三十圓以上ノ証券ニ三錢印紙ヲ貼セシ授受致シ重テ二十圓以上ノ貸借証券ニ二錢印紙ヲ貼セシ授受致シ一時ニ發覺スル時ハ同則中同條ノ二罪ニ付一ノ重キニ從テ科斷シ一次先キニ發シ已ニ論決ヲ經テ一次後ニ發シ輕ク若クハ等キハ置テ論セス重キハ更ニ論シ前罪ニ通算シ後數ニ充ツヘキ哉

譬ハ改正鳥獸獵規則ニ觸レ一ハ鑑札ヲ借リ一ハ禁獵場ニ擅獵スル等一時ニ發シ及ヒ第二類十圓未滿ノ貸借金高ニ界紙ヲ用ヒサル証券授受致シ又第一類使用ヲ爲サ、ル預リ証文十圓以上ノ金高一錢印紙ヲ貼セス授受シ置キ同一ニ相發スル如キハ並一則上ノ違犯ト雖トモ種類箇條相異ル儀ニ付廉々各別ニ處分スヘシ哉

指令 同八年二月二十四日第二十七号

二條トモ各別ニ處斷スヘシ

○名例律

○二罪俱發以重論

第六百四十五條

水澤縣 明治八年二月十日

違式註違條例中ノ罪ヲ犯シ二罪以上俱發ノ者ハ從重科斷ヲ用ヒス各別ニ處斷スヘキ旨明治六年十二月警保寮へ伺御指令有之候處聽訟上喚出ニ參テ以テ違式輕重ニ該ル者他ノ二罪以上發覺スレハ常律ノ二罪俱發以重論例ニ照シ處分可致哉

指令 同八年三月十日 第三十七号

喚出ニ參ノ者ハ本律ノ違式ニ係ルヲ以テ伺ノ通

第六百四十六條

白川縣 同八年二月二十日

御省日誌明治六年後第三十九號東京裁判所伺御指令ニ脱籍逃亡二年ヲ過ル者ハ收祿ノ上家屬ヲ民籍へ編入ス故ニ二年外又別罪ヲ犯

ス者ハ平民ト同ク處分スヘシ二罪俱發ノ限ニアラスト之レアリ又七年第二百十一號秋田縣伺士族ニシテ逃亡シ他管ニ在テ許多ノ星霜ヲ重ルニ當時藩制中ニ係ルヲ以テ該犯ノ審糺ヲ待タス已ニ除族ニラル、者二年以外ニ至リ漂浪中他管ニ於テ仍ホ別罪ヲ犯シ捕ニ就ク時ハ二罪俱發ノ例ニ照シ一ノ重ニ從ヒ科スヘキ哉將タ已ニ除族ニラル、ヲ以テ逃亡ノ罪ヲ論ヒス平民ト看做シ當犯ヲ科シ可然哉ニ二罪俱發ヲ以テ一ノ重キニ仍テ科スト有之御指令兩岐ニ出テ何レニ從ヒ可然哉

指令 同八年三月十日 第四十号

秋田縣指令ノ通心得ヘシ

但シ第一條東京裁判所指令ハ改正ス(六年第七十号二十丁見合)

○名例律

○二罪俱發以重論

白川縣伺 明治八年二月十二日

御省日誌明治七年第五百五十一號敦賀縣伺前畧處刑濟ノ者送致中途ニアリ云々棒鎖一日ニ科スル例ヲ改メ違式輕ヲ以テ論シ實斷スト有之ニ付假令ハ竊盜罪ノ者處刑後送籍中逃走ノ上再竊盜ヲ犯ス如キハ本刑ノ上ニ送致中逃走ノ罪違式輕懲役十日ヲ加役シ可然哉ニ

二罪俱發ヲ以テ論シ一ノ竊盜罪ヲ科スト御指令有之然レハ無籍無產ニシテ授産場ニ在リ逃走シ外ニ在テ竊盜ヲ犯ス者モ亦右ニ照シ

二罪俱發ヲ以テ論シ一ノ竊盜罪ヲ科スルハ勿論ノ儀ト存候處是亦御省日誌明治六年後第三十號京都裁判所伺ニ無產ノ者生業又ハ敷戒ノ爲メ懲役場ニ役使スル者逃走シ外ニ在テ罪ヲ犯ス者ハ棒鎖一日仍ホ犯ス所ノ罪ヲ科スト相見右ハ明治七年御省第十三號御布達以前ノ御指令ニ付御取消ノ儀ニ可有之哉

指令 同八年三月十日
第七日第四十号
二罪俱發ヲ以テ論ス

筑摩縣伺 同八年二月二十日

凡ソ罪ヲ犯シ實斷贖罪並發シテ未タ論決セサル者ハ律例正條アリト雖トモ若シ失火等過誤失錯ノ罪ヲ犯シ已ニ懲役二十日贖罪ニ處スル後竊盜五十日ノ犯罪發覺スルキハ先ニ處決スル二十日ヲ扣除シ餘ル懲役三十日ニ處斷シ可然哉

前條ノ如キ贖罪ノ罪重シ後發實斷ノ罪輕シ若シハ等シキハ一ニ從テ論折シ可然哉

指令 同八年三月二十日
日第四十二号
兩條共伺ノ通

○名例律 ○二罪俱發以重論

第六百四十九條

若松縣伺 明治八年二月十五日

甲乙士族ノ子共ニ禁獄十年ノ罪ヲ犯シ甲ノ子ハ禁獄十年ニ論決シ
 乙ノ子ハ外ニ懲役百日以下破廉耻甚ノ罪ヲ犯スヲ以テ名例律二罪
 俱發ノ例ニ依リ一ノ破廉耻甚ヲ以テ論シ除族ニ處ス後チ乙ハ其父
 ノ養子トナリ族ヲ襲ヒ士族ト異ルナシ甲ノ子ハ破廉耻甚ノ罪ヲ犯
 サ、ルヲ以テ禁獄十年ノ刑ニ處セラレ乙ノ子ハ懲役百日以下ノ破
 廉耻甚ヲ犯スヲ以テ遂ニ禁獄十年ノ刑ヲ免ル、ニ至ル律ノ權衡斯
 ノ如キモ其弊ヲ生セサルヲ得ス聊カ疑儀ヲ生シ候

指令 同八年三月二十
 七日第四十七号

伺中ニ付追テ指令ニ及ッヘシ

第六百五十條

敦賀縣伺 同八年三月十五日

爰ニ甲アリ曾テ乙ノ實印ヲ竊取シ以テ乙ノ借金証書ヲ詐爲シ期限
 淹滞ヲ官ニ告訴ス因テ乙ヲ喚問スルニ曾テ金ヲ借タル事無ク又証
 書ヲ與ヘタル事モ無ク且實印ハ紛失セシト答フ審判中事發覺スル
 片ハ甲ハ改定律例第百二十五條私印ヲ盜ミ及ヒ第二百四十六條私
 ノ文書ヲ詐爲スル不應爲ノ犯罪ナルヲ以テ名例律二罪俱發例ニ仍
 リ盜罪ヲ重トナシ科斷スヘキ處是等ハ律例第二百四十七條告上詐
 不以實ヲ以テ論シ重ト爲シ科斷スヘキ哉

指令 同八年三月二十
 八日第四十九号

本文三罪中一ノ重ヲ以テ論ス

第六百五十一條

三浦縣伺 同八年三月二十七日

○名例律

○二罪俱發以重論

御省日誌中罰則ト常律ト並犯シ及ヒ一ノ罰則ト他ノ罰則ト並犯スル者ノ如キ右孰レモ二罪俱發律ヲ用ヒス各別ニ處分スヘキ旨溢視致シ候然ルニ郵便罰則第七條中書留郵便物ヲ遺失云々其官書官物ニ係ル者ハ從重處斷ス云々又鳥獸獵罰則第十八條此諸規則ヲ犯スニ詐偽脇迫ノ舉動アル者ハ本律ニ仍リ從重科斷ストアリ其重キトハ抑モ何等ニ對シテ指ス者手了解難致候

指令 明治八年四月十日 第五十六号

郵便罰則第七條官ニ係ル信書郵便物ノ遺失ハ尋常ノ信書等遺失ノ罰ニ比較スレハ輕重アルニ付本條罰金範圍中ノ重キニ從テ處分ス可シ

舊鳥獸獵規則第十八條ハ其詐偽脅迫ノ情狀ニ因リ本律ニ該ルモノハ規則ヲ犯スト輕重アルニ付其本律ノ重キニ從テ科斷スヘシ

第六百五十二條

岐阜縣伺 同八年三月三十日

竊盜准盜ノ罪並發スル者ニ罪俱發ノ例ニ在ラス併罪論ス云々ト客歲御省日誌第二十三號山口縣伺御指令ニ相見候處右准盜ハ賊盜律中ノ者ニ限リ候哉他律ニ散見スル棄毀器物稼穡等ノ罪ノ如キ同ク併合致シ候テハ穩當チ欠候様存候如何

指令 同八年四月十日 第八十号

賊盜律中ノ准盜ニ限ルヘシ

第六百五十三條

小田縣伺 同八年三月

無籍ノ者處刑濟本貫ヘ郵送ノ途中脱走シテ二年以外ニ及フ者有之右ハ米々本籍ヘ復歸セサル中ノ逃亡ニ付逃亡律ヲ以テ論セス昨七

〇名例律 〇二罪俱發以重論

年御省第十三號ノ公布ニ仍リ違式ノ輕ヲ以テ處刑可然哉

指令 明治八年四月三
十日第六十七号

五十日以外及ヒ二年以外ニ及フ者ハ各律ニ仍リ二罪俱發ヲ以テ論

大

第六百五十四條

滋賀縣伺 同八年二
月十四日

軍律第八篇兇暴劫掠律内ニハ往々竊盜ヲ以テ論スヘキ者アリ右等
ノ罪ヲ犯シ因テ從前國法ノ罪發覺シ法術ニ於テ之ヲ處斷スルニ本
犯士族ト雖トモ右罪ハ破廉耻甚ヲ以テ論スル限ニアラヌ候哉

但尋常竊盜罪ト併發スルモ併贓ノ限ニアラス候哉

指令 同八年四月二
日第七十号

但書共伺ノ通

第六百五十五條

本省伺書 同八年九月
二十五日

從來法律上二罪俱發以重論諸罰則ニ在テハ往々一罪コトニ處分相
成居候處今般讒謗律並新聞紙條例御頒布有之依テハ右ニ付二罪俱
發シ若シハ一罪先ニ發シ已ニ論決ヲ經テ餘罪後ニ發スルカ如キハ
素ヨリ律例ニ據リ二罪俱發ヲ以テ處分ニ可及哉到底刑法ハ同一ニ
歸セス候ヲハ不都合ニ有之右等ハ無論律條ニ照准スヘキ者ト存候
ヘモ爲念此段相同候至急何分ノ御指揮有之度候也

御指令 同八年十月五
日第八十号

伺ノ通

第六百五十六條

東京上等裁判所伺 同八年十
一月八日

○名例律

○二罪俱發以重論

遊式註進條例犯罪ノ者ハ警視廳ニ於テ處斷致シ候所假令ハ飲酒酩
 醉ノ上路上ニ小便シ或ハ通行人ノ自由ヲ妨ルニ付巡行ノ巡查拘引
 セントスルヲ拒ミ却テ暴言ヲ吐キ又ハ巡查ヲ打擲シ終ニ拘引カレ
 警視廳ニ於テ遊式註進犯罪ヲ糾問スルニ會テ右等粗暴ノ所業ニ及
 ヒ候儀無之旨強陳シ招承ニ服セサルヲ以テ其儘當裁判所ニ送致相
 成仍テ審問ニ及フ處果シテ犯狀明白ニシテ毫モ疑フナク終ニ招承
 ニ服ス就テハ素ヨリ遊式註進條例犯罪ト本律ニ擬スヘキモノトハ
 二罪俱發重テ以テ論スル限ニ非サルヲ以テ拒捕ノ罪ハ本律ニ擬シ
 仍ホ當裁判所ニ於テ遊式註進ノ罪ヲモ問ヒ斷決致シ可然儀トハ存
 候ヘモ爲念相伺候
 指令 明治八年十二月
 四日第九十四号
 伺ノ通

第六百五十七條

宮崎縣伺 同八年六月十五日

假令ハ竊盜賭博並發シ二罪俱發條ニ依リ一ノ賭博ヲ以テ斷了スル
 ノ後再ヒ竊盜ヲ犯サハ再犯ヲ以テ論ス可キ哉將テ前罪竊盜賭博ヲ
 リト雖トモ賭博ヲ以テ斷了セシ者ニ付犯數ニ計ヘス竊盜初犯ヲ以
 テ可論哉

指令 同九年二月七日第十四号

竊盜賭博ヲ犯シ一ノ賭博ヲ以テ斷了スルノ後再ヒ竊盜ヲ犯セハ再
 犯ヲ以テ論ス

第六百五十八條

愛知縣伺 同九年二月二日

士族ニシテ二罪以上ヲ犯シ其一罪ハ閏刑ニ該リ其一ハ破廉耻甚ノ

○名例律

○二罪俱發以重論

百日以下ニ係ル而シテ該犯閩刑ノ一罪先ニ發シ審問ヲ承ルノ際其
破廉恥甚ノ一罪包藏シ禁獄十年以下ノ論決ヲ經テ一二年ヲ經過セ
シ後破廉恥甚ニ係ル百日以下ノ一罪發覺セハ改定律例第七十五條
ノ權衡ニ依リ既ニ經過セシ禁獄ノ日數ヲ問ハス更ニ後發ノ破廉恥
甚ヲ以テ論シ除族ニ止ムヘシ哉

指令 明治九年三月二十
二日第三十六号

伺ノ通

第六百五十九條

熊谷裁判所伺 同九年二
月四日

律例第七十三條已ニ論決ヲ經ルトハ犯罪ヲ首シ免罪トナル如キモ
論決ヲ經ル儀ト相心得可然哉

指令 同九年五月十七
日第五十九号

伺ノ通

犯罪共逃

第六百六十條

滋賀縣伺 明治六年四
月二十二日

犯罪共逃ノ條中同逃一半以上ヲ捕獲云々トアリ右一半トハ假令ハ
三人同逃ノ中ニテ二人ヲ捕ヘ又ハ二人同逃ノ中ニテ一人ヲ捕獲ス
ルノ類ニ候哉且多人數ナレハ一人ニテ一半ヲ捕ヘ難キ乎若シ十人
同逃ノ中ニテ三人ヲ捕獲シ首告スルモ罪ヲ免ルサス候哉右奉伺候
也

指令 同七年二月十四
日第三十五号

一半云々ハ伺ノ通

○名例律

○犯罪共逃

但シ捕獲一半ニ及ハサレハ免罪ノ限ニ在ラス

第六百六十一條

愛知縣伺 明治八年二月十三日

爰ニ現行賭博ノ犯者アリ捕吏之レヲ偵知シ已ニ捕縛ノ際犯者ヨリ私和ヲ求メシカ爲メ他ノ一人ヲ中閉ニ交ヘ事情ヲ告知シ金ヲ以テ捕吏ニ私和ヲ請フニ捕吏之ヲ聽許スルノ後犯者悔懼自首スル者アリ然ル時ハ右中閉ニ交ルノ餘人ハ連累人ト做シ正犯ト同ク首免ヲ與ヘ可然哉

指令 同八年三月二十三日 第四十五号

伺ノ通

同僚犯公罪

第六百六十二條

太政官布告 明治六年十二月二十八日 第四百三十四号

改定律例第七十六條左之通改正候條此旨布告候事

凡府縣官吏ハ知事及ヒ令ヲ長官ト爲シ參事ヲ判官ト爲シ屬ヲ主典ト爲ス其公罪ヲ犯ス者ハ此例ニ依リ遞減シテ罪ヲ科ス

第六百六十三條

京都裁判所伺 同六年七月二十四日

滋賀縣伺御指令ニ同僚犯公罪主典檢點シ失アレハトハ縱令ハ文書ヲ施行スルニ主典誤寫シ長次判官駁正ス可ニ檢點ニ失シ准行スルヲ云フ則差錯主典ニ由ル故ニ主典ヲ以テ所由トナス判官事ヲ斷シテ失アレハトハ縱令ハ主典起案シ罪ヲ斷シテ失ナキニ判官之ヲ檢點ニ當リ罪名ヲ改貼シテ失錯アルヲ云フ則差錯判官ニ由ル故ニ判

○名例律 ○同僚犯公罪

官ヲ以テ所由ト爲ストアル所若シ主典罪ヲ斷シテ錯誤アルニ判官
駁正改貼セシテ准行スルモ仍ホ主典ヲ以テ所由ト爲ス可キ哉

指令 明治六年八月二十
五日後第四十号

同ノ通主典ヲ以テ所由ト爲ス

第六百六十四條

宮崎縣伺 同六年九月
二十三日

改定律例第七十六條ニ典事ヲ判官ト爲シ屬以下ヲ主典ト爲ス云々
被職置耐後典事ヲ被廢大屬昇級更ニ中屬ヲ被置候ニ付テハ屬ヲ兩

岐ニ別テ大屬ヲ判官ト爲シ中屬以下ヲ主典ト爲シテ宣布哉

指令 同七年一月
九日第三号

明治六年第四百三十四號御布告ノ通心得ヘシ

第六百六十五條

筑摩縣伺 同七年一
月十二日

同僚ノ官吏公罪ヲ犯シ文案ニ連署シテ差錯ヲ生スルハ罪其所由ヲ
首トナシ遞減法ニ照依シ擬定スルニ縱令ハ主典一名起案シテ自餘
ノ主典之ヲ點檢シ駁正改貼スヘキアルヲ點檢ニ失シ准行スル如キ
又罪ナカルヘカラスト雖モ其差錯ハ一名ニ係レハ自餘ノ主典ハ連
坐セス止テ起案ノ一名ヲ所由ノ首トナシ遞減法ヲ以テ科斷シ可然
哉

指令 同七年二月二
日第二十一号

同ノ通

三九 第六百六十六條

大分縣伺 同七年一
月三十日

當縣ニ於テハ是迄罪案ヘ主任ノ正權典事一名屬一名連署仕來候處

○名例律

○同僚犯公罪

先般正權典事被發候後右職名ニテ調理仕候分ハ正權大屬ニテ取扱
來候へ共今般改定律例第七十六條御改定ニテ府縣ハ參事ヲ判官ト
ナスト御布告有之且裁判所罪案雛形ニハ掛リ判事一名解部一名書
藏有之然レハ判事ト有之候ハ則參事解部ハ屬ニテ取扱可然哉ニ似
クレヒ地方官ノ如キハ事務繁劇參事ヲ以テ判事ノ場ニ充ルキハ隨
テ余ノ事務ハ淹滯致シ候條掛リノ儀ハ主任ノ屬兩名ニテ可然哉
指令 明治七年二月十
七日第三十六號
伺ノ通

第六百六十七條

名東縣伺 同七年二
月十七日

太政官御布達癸酉四百三十四號ニ府縣官吏ハ知事云々ト有之候處
事務多端參事一人ヲ以テ悉ク罪囚ニ對スルノ隙ヲ得ス仍テ參事欠

席ノ節ハ罪案上ノ署名モ虛書ニ有之且高松洲本兩支廳ニ於テ糺彈
スル懲役百日以下罪囚等ニ至テハ猶更參事ノ署名其實無之因テ兩
支廳ハ出張官吏其事務ノ長タル者亦本廳ノ若キモ親ヲ獄庭ニ出テ
罪囚ニ對スル上席ノ官吏ヲ以テ權リニ判官ノ地位ニ當テ罪案上ニ
モ記載致度此段相伺候也
指令 同七年二月二十
四日第四十三號
伺ノ通

第六百六十八條

滋賀縣伺 同七年三
月十九日

同僚犯公罪條例府縣官吏ハ知事及ヒ令ヲ長官ト爲シ參事ヲ判官ト
爲シ屬ヲ主典トナス云々トアリ然ル處昨明治六年太政官第四百二
十七號ヲ以テ金穀出納ノ順序等雛形ヲ以御布告相成右雛形ニ仍シ

○名例律 ○同僚犯公罪

四三九

ハ府縣限リ課長ヲ置カサルヲ得ス若令參事屬官等文案ニ連署シ公
罪ヲ犯ストキ主任ノ屬官失錯スルヲ課長及ヒ令參事モ亦點檢ニ失
スレハ主任官吏ヲ首トナシ四等ニ依リ遞減セサルヲ得ス然レハ府
縣官吏ハ三等ニ依ル條例有之上ハ四等ニ分テ遞減致ス事モ不相成
右ハ如何致候テ可然哉
等外吏主任トナリ一事務ヲ取調屬官之ヲ檢査スルニ失錯アルヲ覺
ラス其儘令參事ニ呈シ令參事モ亦點檢ニ失シ進行スルノ類是亦如
何遞減シテ可然哉

同僚官吏人罪ヲ故出入スル等ノ公務上ニ就テ有心故造ノ罪ヲ犯ス
者ハ遞減ノ法ヲ用ヒス凡人首從ノ法ニ依リ罪ヲ科シ可然哉

指令 明治七年十月二十
八日 第四百七十七號

第一條 課長タル屬官ハ主任ノ屬官ト同ク俱ニ所由トナシ三等減

ノ法ニ依ル

第二條 等外吏主任トナリ失錯アレハ其文案ニ連署スル屬官ト俱
ニ所由トナシ三等減ノ法ニ依ル

第三條 同僚官一人私ヲ挾ミ故サラニ人ヲ罪ニ出入スルニ同僚官
情ヲ知ル者ハ同罪

第六百六十九條

静岡縣伺 同七年
九月

客年第四百三十四號ヲ以テ改定律例第七十六條御改正ノ御布告之
レアリ候ニ付公罪ヲ犯ス者ハ即チ屬ヲ主典トナシ參事ヲ判官トナ
シ知事令ヲ長官ト爲シ遞減スル儀ニ候處當縣於テハ事務繁劇ニシ
テ聽斷ノ初席推問等ニ臨席イタシ難キ節ハ聽訟課屬ニ代理致サセ
罪案連署モ亦同様取計可然哉就テハ公事失錯亦ハ誤刑等有之節モ

○名例律

○同僚犯公罪

參事ノ代理タル屬ヲ判官トシ第二從ヲ以テ論シ參事ハ屬ニ代理致
サセ候故ヲ以テ論セズ可然哉

指令明治七年十一月三
指日第百九十七号

伺ノ通

第六百七十條

島根縣伺 同八年二
月二日

公罪ヲ犯ス者ハ屬ヲ主典トシ參事ヲ判官トシ令ヲ長官トシ遞減云
々明治六年第四百三十四號ヲ以テ改定律第七十六條御改正ノ御布
告有之候處主任ノ屬官失錯スルヲ課長及令參事亦點檢ニ失スレハ
主任官吏ヲ首トシ四等ニ依リ遞減セサルヲ得ヌ云々尙又等外吏主
任トナリ一事務ヲ取調屬官之ヲ檢査ニ失シ失錯ヲ覺ラス云々ノ類
如何遞減可然哉七年三月滋賀縣伺 同十月御指令(七年第百七十七
号十四丁見合セ)

ニ課長タルノ屬官ハ主任ノ屬官ト同ク俱ニ所由トナシ三等減ノ法
ニ依ル等外吏主任トナリ失錯アレハ其文案ニ連署スル屬官ト俱ニ
所由トナシ三等減ノ法ニ依ルト有之然處當縣ニ於テハ正權大屬ノ
内ニ課長申付其課長タル正權大屬ハ一課又ハ二課ヲ兼任課中各係
ヲ總轄セシメ候ニ付課中一事務主任ノ屬官ト其公務ノ煩阻注意ノ
分難純全大ニ逕庭其事實如何ニモ一概ニ論シ難キ情狀有之就テハ
其事情ヲ酌量シ四等減ニ依リ候テハ如何可有之哉尙又等外吏主任
中ノ事務失錯アレハ其所由ヲ以テ論シ候儀ハ勿論ニ候得共若等内
官公務至劇ニシテ無餘儀其主任中ノ一事務ヲ一時等外吏ニ付シ下
調セシメ下調整頓等内官勘査疎漏ヨリ失錯トナルカ如キハ其事情
等外吏ヲ以テ所由トナスハ安妥ナラスシテ憫諒スヘキ者アルカ如
シ就テハ右等ノ事件ハ情狀ヲ酌量シ等内官ヲ所由トシ等外吏ハ第

○名例律

○同僚犯公罪

二從トナシ如何可有之哉元來三等減ノ儀ハ既ニ明確ナル御布告モ有之候得共前條二件ノ如キハ其事實一概ニ論シ難ク情法ヲ酌量シテ遞減スルモ不可ナルナキカ如ク殊ニ其後凡罪ヲ斷スル正條アリト雖モ所犯輕キ者ハ情法ヲ酌量シテ輕減五等ニ至ルヲ聽サレ候儀更ニ公布相成居候ヘハ官吏公罪遞減ノ儀モ其事情ヲ酌量スヘカラサル筋ハ無之等歟ト被相考候間此段相伺候也

指令 明治八年二月二十
四日第二十八號

滋賀縣へ指令ノ通り 但シ明治七年第百三十四號ノ御布告ニ照シ情法ヲ酌量シテ輕減スルハ伺ノ通

第六百七十一條

滋賀縣伺 同八年一月二十四日

同僚犯公罪條原設四等官ノ内欠員アルモ亦四等ニ依リ遞減シテ罪

ヲ科ストアリ舊藩官吏遞減法モ知事ヲ長官トシ正權大參事ヲ次官トシ正權少參事ヲ判官トシ屬ヲ主典トナシ遞減スルノ處辛未七月十四日今般藩ヲ廢シ縣ヲ被置候付テハ退テ御沙汰候迄大參事以下是迄通事務取扱可致事ト御沙汰アルノ後ハ尋常知事ノ欠員トハ異ナルニ依リ正權大參事ヲ以テ長官トナシ屬ニ至ル迄ヲ三等ニ相分テ候テ可然哉又知事ハ既ニ免セラレ尙參事ノ名義ヲ存セラル、上ハ參事ノ上知事アルノ御規則ナレハ知事ハ免セラル、ト雖モ現設四等官ノ内欠員アル者ト見做シ前顯欠員アルモ亦四等ニ依リ遞減シテ罪ヲ科スト云フニ依リ四等ニ分テ罪ヲ科シ可然哉

指令 同八年三月四
日第三十二號

四等ニ分テ罪ヲ科スヘシ

○名例律 ○同僚犯公罪

○四九 第六百七十二條

白川縣伺 明治八年二月二十三日

改定律例第七十六條凡府縣官吏ハ知事及ヒ令ヲ長官ト爲シ參事ヲ判官ト爲シ屬ヲ主典ト爲ス其公罪ヲ犯ス者ハ此例ニ依リ遞減シテ罪ヲ科スト此レ同官罪ヲ犯シ其輕重各差等アルヲ云ナリ抑此ノ法ノ由テ起ルモノハ蓋シ癸酉八月正權典事ヲ廢シ更ニ官制ヲ設ケラレ尙同年十月大屬以下ノ職掌四課ニ分テ知事(縣ハ令)參事ノ指令ニ從ヒ各所管ノ事務ヲ掌ル假令瑣末ノ事タリモ知事(縣ハ令)參事ノ裁決ヲ經スシテ施行スルヲ得ス其官等ニ隨ヒ所務ニ大小ノ區分アルヘシト府縣ノ職制三等ニ設ケラレタル故ナリ然ルニ實際縣務ノ儀ハ便宜ヲ量リ正權大屬ノ内ヲ以テ四課ノ課長ニ當テ職制自カラ四等ニ分ツ大略令一等(四課ヲ總轄ス)參事一等(四課ヲ參判ス)四課長一等(庶務聽訟租稅出納各一課ヲ總轄ス)其他ノ諸屬以下一等(譬ヘハ庶務課ノ内戶籍掛往復掛等ノ如キ各一二ヲ分轄ス)諸屬ノ出ス所課長必ス覆議シ四課長ノ出ス所參事參判シテ令ニ決議ス是即チ一公事四等ニ成建スレハ公罪遞減ノ法亦四等ナカルヘカラスト雖モ右律ニ依ルキハ遞減ノ法止マ三等ノニ課長ヲシテ第二從ト爲ヌヲ得ス依テ相當ノ處分方既ニ相伺候等ノ折柄御省日誌明治七年第百七十七號滋賀縣伺第六條御指令ニ課長タル屬官ハ主任ノ屬官ト同ク俱ニ所由ト爲シ三等減ノ法ニ依ルト有之右ニ援引勿論ノ儀ニ候得共右所由屬ノ如キハ專ラ其一二事ヲ擔當シ課長ハ之ヲ訂正スルノ責ナレハ所務ニ區分アリ錯誤ノ罪輕重ナキヲ得ス故ヘニ官吏四等トナルモノハ仍ホ遞減ノ法ヲ四等ト爲シ若シ公罪ヲ犯シ諸屬所由トシハ屬ヲ首トナシ課長ヲ第二從トナシ參事ヲ第三從トナシ令ヲ第四從トナシ若シ課長以上錯誤アルモ亦此四等ノ法ニ依リ遞減シテ

一四九

○名例律 ○同條犯公罪

二四九

罪ヲ科シ原設ノ官吏四等ナキハ仍ホ本律ノ如ク處分致シ如何可有之哉

指令 明治八年三月二十三日第四十五号

屬官中職掌ニ輕重アリト雖モ四等減トナスヲ得ス滋賀縣へ指令ノ通心得可シ

第六百七十三條

筑摩縣伺 同九年一月二十八日

兼任七等判事一人ニシテ病氣或ハ事故有之聽斷ノ席ニ對スル能ハサル節ハ判決共聽訟課屬ヲシテ代理爲致可然哉
若シ右ノ如ク聽訟課屬ヲシテ代理爲致公事失錯又ハ誤刑等有之節ハ其屬判事ノ代理タルヲ以テ改定律例改正第七十六條ニ照シ其罪判官ノ位置ヲ以テ論シ可然哉

指令 同九年二月十三日第十六号

兩條共伺ノ通

第六百七十四條

三重縣伺 同九年一月十七日

裁判所無之令參事七等出仕判事兼任タルノ縣ニ於テ裁判上失出入人罪ノ如キニ方リテハ其主務ノ判事ヲ長官ト爲シ主任ノ屬ヲ主典ト爲シテ二等ナルモ名例同僚犯公罪條例仍ホ府縣官吏原設三等ナルヲ以テ其判官ヲ欠員トシ三等減ノ法ニ依ル儀ニ可有之候哉
府縣裁判所聯制判事長判事判事補屬ノ四等ヲ設置セラル、ハ名例律同僚犯公罪ノ如キハ則チ長官次官判官主典ノ四等タルニ可有之哉或ハ判事補屬ハ共ニ主典ト爲シ一等トシテ仍ホ原設三等タル哉
前條在縣判事及屬ノ如キハ府縣官吏ノ例ニ由ル可ラスシテ府縣裁

三四九

○名例律

○同僚犯公罪

判所ノ原設ニヨリ減等法可相成哉

指令 明治九年二月二十
五日第二十三號

縣官判事ニ兼任スト雖モ仍ホ明治六年第四百三十四號布告ノ通心
得ヘシ

府縣裁判所判事補屬ハ共ニ主典トシテ一等ト爲ス

公事失錯

第六百七十五條

宮崎縣伺 明治七年
一月四日

官吏公事失錯ノ儀有之罪狀判然タル者ハ輕重ヲ云ハス進退伺書ニ
律ヲ擬シ處斷仕候テ可然哉

指令 同七年二月三
日第二十四號

伺ノ通

但進退伺書ニ擬律ヲ朱書シ於應接席相達候事

第六百七十六條

滋賀縣伺 同七年七
月十三日

官吏華士族區長戸長平民ニ至ルマテ全ク公罪及ヒ過誤失錯ニ係リ
待罪ノ文案明白ニシテ推問ヲ待ナル者ハ別ニ罪案ヲ作ラス待罪書
ノ後ニ斷案ヲ朱書シ傳達所ニ於テ下付致シ可然哉
指令 同七年七月二十三
日第二百二十九號
輕罪ノ者ハ伺ノ通

第六百七十七條

筑摩縣伺 同七年七月
三十一日

先般當縣貫屬士族元松本藩士與事武本高美儀去ル明治四年辛未正

〇名例律

〇公事失錯

月中元中野縣百姓共暴動有之同所へ出兵中瘋癲ヲ發シ人ヲ重傷セ
 シ者ニ有之該藩ニ於テ三ヶ年ノ見込ヲ以テ禁錮申付置候處當縣創
 置引受ノ際申送モ無之事遲緩ニ出テ不都合ニハ候得共本犯追々痊
 癒ニ相運ヒ候付處置方及ヒ追書ヲ以テ當該官吏ノ處分相伺候處高
 美ハ已ニ痊愈スレハ放免スヘシトノ次ニ元兵部省ノ指令ニ依リ處
 置濟ノ上同省へ届出ルノ跡分明ナラハ今更ニ其罪ヲ問ハス唯廢立
 ノ際等閑ニシテ交付セサル粗漏ノ罪ハ不問ノ限ニアラストノ御指
 令ニ付尙亦兵部省へ届出ルノ跡元大參事へ及尋問候得共別摺零申
 出ノ通而已ニテ巨細ハ不分明ニ有之候間前顯何分ノ御處置相伺候
 指令明治七年九月二十三日第百五十三號
 廢藩置縣ノ際交付ス可キ罪人ヲ交付セサルノ罪事草創ノ間ニ在テ
 情狀亦甚輕シ因テ違式輕贖ヲ聽ス

共犯罪分首從

第六百七十八條

白川縣伺 明治六年六月三十日

池田末八

右ハ別紙罪案ノ通ニテ盜匪首從併テ七十三圓三十錢壹厘(一人盜ト
 首ニ成匪合テ三十二圓七十二錢六厘從匪四十圓五十七錢五厘)新條
 例首從ノ罪並發スル者ハ首從ノ罪ヲ併セ罪一等ヲ減ス云々然ニ此
 末八儀竊盜三犯ノ者ニテ五十圓以上ハ絞ト云フ依テ右條例ヲ照シ
 一等ヲ減シ准流十年可申付哉

但右條例中若シ併セテ首從ノ本罪ト仍ホ等キハ更ニ減セストア
 レハ獨リ首從ノミヲ以テスルモ亦五十圓以下ニ付流三等罪仍ホ

○名例律

○共犯罪分首從

等シシ候ニ付本行ノ通

指令 明治六年九月七日
日後第五十一号

賊盜律竊盜條例竊盜三犯五十圓以上

懲役終身

池田末八

伺ノ新條例首從ノ贓並發スル者ハ首從ノ贓ヲ併セ罪一等ヲ減ス
云々ハ再犯三犯四犯ノ如キ犯數ト贓數トニヨリテ罪ヲ定ムルニ
用ユルノ例ニ非ス依テ竊盜三犯五十圓以上ヲ以テ罪ヲ科ス

第六百七十九條

京都裁判所伺 同六年十二月二十八日

父罪アリ其子代テ刑ヲ受ルハ相成サル處一家共犯ノ罪律ヲ按シテ
其父ヲ坐スルニ父ノ病羸ヲ哀ニ其子代ノコヲ願フ者ハ之ヲ許シテ
可然哉

指令 同七年一月十五日
第五日第八号

父子共ニ罪ヲ犯スニ父篤疾ニ罹ルキハ其子ヲ坐スルニ首タルノ罪
ヲ以テス可シト雖モ本文ノ如キハ代罪ヲ聽スノ限ニアラス律ニ依
テ科斷ス可シ

第六百八十條

濱田縣伺 同七年二月二日

名例律共犯罪分首從條ニ婦人ノ尊長ハ首タリト雖モ仍ホ卑幼ノ男
夫ヲ坐スト有之候ニ共若此男夫十五以下ニ候ハ婦人ヲ坐シ候哉
指令 同七年二月二十
八日第四十七号
伺ノ通

第六百八十一條

滋賀縣伺 同七年三月二日

○名例律 ○共犯罪分首從

立嫡違法ノ罪ヲ犯ス者ハ一家人共犯ノ例ニ仍リ止タ尊長一人ヲ坐シ卑幼ハ論セスシテ可然哉

指令 明治七年七月七日 第二百二十三号

伺ノ通

第六百八十二條

白川縣伺 同七年七月十四日

名例律共犯罪分首從條若シ一家人共ニ罪ヲ犯セハ止タ尊長ヲ坐シ卑幼ハ論セス其盜罪及ヒ枉法不枉法若シハ鬪毆殺傷等父子同ク犯スハ並ニ凡人首從ノ法ニ依ト有之賭博ノ儀不相見候處清律彙纂共犯罪分首從條若一家人共犯止坐尊長若尊長年八十以上及篤疾歸罪於共犯罪以次尊長侵損於人者以凡人首從論トアル頭書ニ如嚇索賭博枉法不枉法等賍俱謂之侵不獨盜也發塚毀屍亦謂之損不獨殺傷也

ト有之候得ハ賭博發塚毀屍ハ一家共犯ノ例ニ無之候ニ付若シ一人俱ニ賭博ヲ犯セハ皆懲役八十日其塚ヲ發キ屍ヲ毀ハ凡人首從ノ法ニ依リ論決可然哉

指令 同七年八月二十八日 第四百二十二號

一家人共ニ賭博ヲ犯セハ一家共犯ヲ以テ論ス發塚毀屍ハ伺ノ通凡人首從ノ法ニ依ル

第六百八十三條

若松縣伺 同七年十月五日

一家人賭博ヲ犯ストキハ一家共犯ヲ以テ論シ可然哉夫妻共ニ賭博罪ヲ犯シ夫ハ甲ノ家ニ於テシ妻ハ乙ノ家ニ於テスル者一家共犯ノ例ニ無之哉

指令 同七年十一月十三日 第四百八十九號

名例律

○共犯罪分首從

尊長ノ命ニ聽從シテ共ニ賭博ヲ犯スノ卑幼ハ一家共犯律ニ依ルト
雖モ夫妻別家ニ於テ各自ニ犯ス者ハ各其罪ヲ科ス

第六百八十四條 若松縣伺 明治七年十月二十五日

名例律凡僧尼ノ受業師ニ於ル伯叔父姑ト同シ其徒弟ニ於ル兄弟ノ
子ト同シ若シ共ニ罪ヲ犯セハ一家共犯ヲ以テ論シ可然哉右相伺候
也

指令 同七年十二月三十一日
第九十九号

同居ナレハ伺ノ通

第六百八十五條 小田縣伺 同八年三月

賭博一家共犯再度ニ及フト雖モ仍ホ一家共犯ノ例ニ依ルヘキ儀ニ

候哉

指令 同八年四月三十日
第六十七號

伺ノ通

第六百八十六條 水澤縣伺 同八年三月三十一日

第一條 名例律一家人共ニ罪ヲ犯セハ止テ尊長ヲ坐シ卑幼ハ論セ
ス云々其盜罪及ヒ枉法不枉法若シハ鬪毆殺傷等父子同シ犯スハ並
ニ凡人首從ノ法ニ依ルト有之然ハ父子盜罪ヲ犯ス父首タリ子從
レハ尋常首從ノ法ニ依リ更ニ疑ヲ容レスト雖モ子首タリ父從タル
者ハ仍ホ父ヲ從トナシ子ヲ首トナスヘキ哉將テ第一項ニ止尊長ヲ
坐シ卑幼ハ論セストアルヲ以テ觀レハ子首タルモ從トナシ父從
タルモ首ヲ以テ論シ可然哉

○名例律 ○共犯罪分首從

第二條 一家共犯ノ時尊長年八十以上及ヒ篤疾アレハ其次ノ尊長ヲ坐ストアレハ其尊長病没若シハ行衛知レサル後發覺スレハ亦次ノ尊長ヲ坐シ可然哉

第三條 盜罪ニ係ル一家共犯ニシテ尊長病没ノ後發覺スレハ其次ノ尊長ヲ以テ首トナシテ論シ可然哉

指令 明治八年四月三十日第六十八号

第一條 父ヲ從ト爲シ子ヲ首ト爲シテ論ス

第二條 尊長病没スレハ伺ノ通リ其行衛知レサル者ハ探偵追捕シテ罪ヲ科ス其次ノ尊長ヲ坐スルノ限ニアラス

第三條 病没スル尊長首犯ナレハ其次ノ尊長ハ從タルノ本罪ヲ科ス

第六百八十七條

茨城裁判所伺 同八年七月十二日

第一條 追捕罪人條前項曰捕吏差遣ヲ承ケ罪人ヲ追捕スルニ事故ニ託シテ行カス若シハ罪人ノ所在ヲ知テ捕ヘサル者ハ杖一百トアリ右ハ捕吏二名ナルトハ勿論首從ヲ分テ罪ヲ科スルノ儀ト相心得可然哉

第二條 後項曰若シ財ヲ受ケ故縱スル者ハ囚ト同罪重キ者ハ罪ニ計ヘ枉法ヲ以テ重ニ從テ論ストアリ其罪ヲ受ケスシテ故從スル同罪者ハ首從ヲ分テ罪ヲ科スルノ儀ト相心得可然哉

指令 同八年十月八日第八十一号

第一二條 伺ノ通

第六百八十八條

滋賀縣伺 同八年五月二十四日

○名例律

○共犯罪分首從

先般常縣ヨリ子女ヲ棄ルニ雇ヲ受テ棄ル者ハ懲役九十日トアリ若シ一家ノ卑幼或ハ雇人等尊長家長ノ命ヲ受テ棄ル者ハ一家人共犯ノ例ニ仍リ罪ニ坐セスシテ可然哉ト相伺候處家長ノ命ヲ受テ子女ヲ棄ル者雇人ハ懲役九十日卑幼ハ一家共犯例ニ依ル若シ棄兒死スルハ此限ニ非スト御指令アリ雇人ノ家長ニ於ル容隠スルコト得ルト雖モ家長ト共犯ニ係ル者ハ前顯棄兒罪ニ限ラズ總テ凡人首從ノ法ニ依ル可キ哉

指令 明治八年十二月二日 第十五日 第百二號

伺ノ通

第六百八十九條

山形縣伺 同八年五月二日

共犯罪分首從律第二項若シ一家人共ニ罪ヲ犯セハ止テ尊長ヲ坐シ

卑幼ハ論セスト有之候處今叔姪一家ニ同居シテ戸生ハ姪ナルニ二人同罪ヲ犯セハ止テ叔父ヲ坐シ候哉又ハ專制ノ權戸主ニ在テ以テ止テ姪ヲ坐シ候哉同上ノ際ニ當リ姪ノ齡遙カニ叔父ヨリ長スルモ尊族ナルヲ以テ止テ叔父ヲ坐シ候哉

指令 同九年一月二日 十四日 第八號

姪戸主ヨリモ卑幼ニ屬スレハ尊長ノ叔父ヲ罪ニ坐シ叔父幼少ナルハ姪尊族タルモ年長スルヲ以テ姪ヲ罪ニ坐スヘシ但シ叔姪並ニ年十五以上ナレハ年少ノ尊族ヲ坐ス

犯罪事發逃亡

第六百九十條

愛媛縣伺 明治六年五月二十五日

○名例律

○犯罪事發逃亡

茲ニ盜四人アリ甲乙同シ人家ニ忍入衣類五六十品ヲ盜ム夜中甲衣類二十枚ヲ配受シテ之ヲ金二十九圓ニ賣ル其事主分明ナラスシテ乙未タ捕縛ニ就サルヲ以テ其贓ノ全數ヲ知ルニ由ナケレハ二十兩以上ノ罪杖八十ニ處セサルヘカラス丙丁衣類四十品ヲ盜ミ二人同シシ縛ニ就ク其賣拂ノ代金四十圓ナル分明ナルヲ以テ杖一百ニ處ス甲乙ノ贓丙丁ニ過ルハ料知スヘシト雖モ乙ノ未タ縛ニ就スシテ其贓數ヲ確知スヘカラサルヲ以テ丙丁ニ二等ヲ減セサルヲ得ス此等ノ儀實地上毎々之アリ併贓ノ處置ニヨリ不平等ノ儀少ナカラス如何

指令 明治七年二月二日第二十一号

竊盜四人ノ内一人縛ニ就カス名例律犯罪事發逃亡條ニ依リ處分シ其併贓ノ方乙ノ贓知ル可ラスト雖モ事主ノ口供ニ於テ判然タレハ

併贓シテ罪ヲ科ス可シ

第六百九十一條

相川縣伺 同八年二月二十四日

昨七年御省日誌第百七十九號裁判所ヨリ明法寮へ問合持兇器強盜三人アリ會捕吏ノ來ルニ逢ヒ散逃互黨類ノ所在ヲ知ラス又盜金ノ多寡ヲ知ラス後ニ乙丙ノ兩賊ヲ得テ糾問スルニ云々回答ニ罪ヲ斷スルハ口供結案ニ依ルト律ニ明文アレハ止マ事主ノ片言ヲ以テ證佐ト爲シ贓ヲ計ヘ罪ニ擬シ難シ新律犯罪事發逃亡條ニ照シ云々ト有之若シ甲ノ奪ヒ去ル金員若干ト乙丙ノ内ニテ首スルモ事主ノ届ニ符合セス或ハ金員ノ多寡ヲ知ラスト自スモ皆確定シ難キニ依リ乙丙ノ得ル所ノ贓數ヲ以テ處斷ス可キカ茲ニ竊盜三人アリ首甲ハ逃亡所在ヲ知ラス從乙丙ヲ捕縛糾問スルニ衣類並銅貨五圓ヲ盜ミ

○名例律 ○犯罪事發逃亡

衣類ハ甲外へ取隠シ品數所在ヲ知ラス銅貨一圓五十錢宛ヲ分配受
ケルト白ス斯ノ如キモ亦窃盜贓五圓ノ從ヲ以テ論セシカ既ニ衣類
ヲ盜取ノ口供ハ備ハリ只品數事主ノ片言ヲ以テ定メ難シトシテ是
ヲ措キ後ヲニ甲ヲ捕獲シ品數事主ノ口供ト符合スルヲ待テ又其不
盡ノ罪ヲ加ヘハ犯罪自首條不實不盡ヲ以テ論シ難シ然レハ甲而已
ヲ重贓ニ科シテ乙丙ハ貼斷ニ及ハサル歟

指令 明治八年三月二十
八日第四十九号

前段ハ同ノ通後段ハ金圓ヲ罪ニ科シ衣類ハ追テ甲捕獲シ事主ノ口
供ト符合スルヲ待テ犯罪事發逃亡律内前決ノ罪ニ通計シテ後問ノ
數ニ充ツル法ニ照シテ處分ス

第六百九十二條

京都裁判所 同九年六月
二十四日

新律犯罪事發逃亡條若罪ヲ犯シ事發シテ逃亡スルニ現在衆犯ノ証
据アリテ其首從明白ナレハ獄已ニ成ルニ同シ後ニ獲ルト雖モ原擬
ニ依テ決罰シ更ニ質對ヲ用ヒストアリ右衆犯トハ同律稱日者以十
ニ時條衆ト稱スルハ三人以上トアルニ依リ其逃亡者四人以上逃亡
スルニ現獲ノ者三人以上ナルモ此法ヲ用ヒ若其現獲人二人ナルモ
ハ仍ホ前決ノ罪ニ通計シ後問ノ數ニ充ルノ法ニ依テ處分スルニ可
有之ト雖モ已ニ罪ヲ斷スルハ證ニ依ルト御改正之アル上ハ此律ニ
依ラス各其犯罪ノ證佐ニ依テ處分スル儀ト心得可然乎
指令 同九年十一月十
四日録第五号

何ノ通

〇名例律 〇犯罪事發逃亡

親屬相爲容隠

第六百九十三條

埼玉裁判所 明治七年七月三十一日

凡ソ家長雇人ノ爲ニ容隠ヲ許ス義律ニ不相見候へ共雇人家長ノ爲ニナルノ權衡ニ反照スレハ是又論セスシテ可然哉

指令 明治七年八月二十日 第四百一十一号

家長雇人ノ爲ニ容隠スルハ勿論ニ置ク可カラヌ

第六百九十四條

福島縣 同八年三月二十二日

今爰ニ容隠ヲ聽ス可キ女婿甲ノ頼ミニ依テ其弟ノ犯罪者ヲ又他ノ女婿乙ニ託シテ容隠セシムル具丙ナル者アリ右甲ノ弟ト乙トハ等親外ニシテ容隠ヲ聽ス可キニ非ス去ナカラ乙ニ於テ甲ノ弟ヲ容隠スルヤ原具丙ノ寄託ニ據ル者ニシテ一該ニ他人ヲ容隠スルヲ以テ

論擬スルハ如何ト疑テ生ス依之名例律親屬相爲容隠條ハ右ニ記載スル親族本人ノミニ限リ候儀ニテ縱令前文ノ如キ容隠ヲ聽サル可キ親族ノ寄託ヲ受ルモ仍ホ凡人ヲ以テ論ス可キ儀ニ可有之哉
指令 同八年四月十五日 第五百十八号
伺ノ通

本條別有罪名

第六百九十五條

滋賀縣 同七年四月二十八日

本條別有罪名條本條別ニ罪名アリテ名例ト罪同シガラサルハ本條ニ依リ之ヲ科ストハ縱令ハ共犯罪分首從條ニ依レハ盜罪枉法不枉法圖毆殺傷等ヲ除クノ外其餘ノ罪ハ皆一家人共犯ノ例ニ依リ止マ

○名例律

○親屬相爲容隠

○本條別有罪名